

「工芸」英訳ガイドライン

工芸を伝える際に、気をつけたいポイント

やきもの、漆、石川県の工芸品を中心に

こんなにバラバラ!

公的な施設で
使われている訳語でも
「伝わらない」
ものがあります



一般社団法人 ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

2018年版

もくじ

◆ 1	日本特有の技や素材をどう訳すか	I
◆ 2	「〇〇焼」「〇〇塗」をどう訳すか 地域の特産品の工芸	5
◆ 3	「私は〇〇家(師)です」をどう訳すか 職業を英語で称する	10
◆ 4	作品名、作者名、時代、所蔵の表し方	12
◆ 5	発音記号(ハイフン、マクロン)の使い方	22
◆ 6	「工芸」をどう伝えるか Kogeiと Craft	24
◆ 7	これは伝わらない／これなら伝わる 工芸用語の英訳例	27
◆ 8	巻末資料	50
	「文化財の英語解説のあり方について」(平成28年7月)より	
	「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」 (平成26年3月 観光庁)より	

ガイドラインの作成に際し事例参照した図録、書籍、Webサイト一覧	iii
----------------------------------	-----

工芸の英訳がバラバラ

日本の工芸を紹介する媒体は、Webサイト、書籍、美術館・博物館、各店舗、観光ガイドなど多岐にわたりますが、その用語はバラバラに英訳されています。同じであるはずのものが、英訳時に別のものとして伝わり、多くの混乱を招いています。2020年に向けて、多言語化が急がれていますが、同時に、それはさらに混乱を大きくしていく可能性もあり、いま取り掛かるべき大きな課題と考えました。

21世紀鷹峯フォーラムを基軸に横断的な連携をしているザ・クリエイション・オブ・ジャパンが中心となり、日本各地の有識者、研究者、ギャラリスト、翻訳の実務者など一線でご活躍の方々の知見を集めながら、英訳時のガイドラインづくりに着手しています。今回は第一弾として、公的文献やWebサイトでバラバラに訳されたものの例をまとめ、「伝わりにくい」あるいは「適切でない」ものもあることを提示しました。

海外の方々にとって言葉のバラツキによる困惑を減らし、工芸を理解しやすく、一人でも多くのファンを増やしていく一助になることが目的です。

ガイドラインの仕組み

これが正しい、を示すのではなく、「この言葉では伝わっていない可能性が高い」ものと、その理由を挙げています。言葉は状況、時代、立場によって変わるものです。ある立場の人にとっては「伝わる」言葉が、ある人同士には「伝わらない」言葉にもなります。伝わらない理由を知ること、自分にとってこの場合に使ってよいものか、よくないものかお考えいただく…ということを想定したつくりになっています。海外へ日本文化を紹介する多くの方々、美術館、博物館、工芸を展示する施設、ショップや美術商、商社全般、つくり手の皆様にお役立ていただきたいと考えています。

対象

工芸に関する言葉を英訳する必要がある担当者が対象です。ご自身が英訳をされる方だけでなく、翻訳会社、ならびにネイティブに依頼をする方が、依頼時やできあがりを確認する際に注意いただく点を挙げています。

◎お願い

より使いやすいものにしていくために、多くの方々のご意見、事例を随時集めています。ご助言いただけますと幸いです。現在、第二弾として「推奨表現」の編纂をはじめています。
ホームページ▶<http://thecreationofjapan.or.jp>
mail▶info@thecreationofjapan.or.jp

事務局

一般社団法人 ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

担当) 坂井基樹、岩関禎子、田中孝樹

〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-12 壹番館3階

TEL: 03-3573-3339 / FAX: 03-3573-3315

展覧会図録

「石川県立美術館所蔵品図録」(石川県立美術館、1994年)／「板谷波山と近代の陶芸」(茨城県陶芸美術館、2001年)／「色絵 Japan CUTE !」(出光美術館、2018年)／「英国の代表作にみる バーナード・リーチ展」(朝日新聞社、1980年)／「永青文庫 細川家の名宝」(MIHO MUSEUM、2002年)／「江戸の粋・明治の技―柴田是真の漆×絵」(日本経済新聞社、2009年)／「大倉集古館の名品」(西日本新聞社、2003年)／「尾形光琳生誕350周年記念 大琳派展 継承と変奏」(東京国立博物館、2008年)／「驚きの明治工藝」(東京藝術大学大学美術館、2016年)／「開山大師六五〇年遠諱記念 妙心寺」(東京国立博物館・京都国立博物館、2009年)／「柿右衛門―その様式の全容―」(佐賀県立九州陶磁文化館、1999年)／「柿右衛門と鍋島」(出光美術館、2008年)／「華麗なる伊万里、雅の京焼」(東京国立博物館、2005年)／「佳麗なる近代京焼―有栖川宮家伝来、乾山伝七の逸品」(宮内庁三の丸尚蔵館、2014年)／「乾山の芸術と光琳」(出光美術館、2007年)／「京の至宝 黒田辰秋」(美術館「えき」KYOTO、2017年)／「金と銀 かがやきの日本美術」(東京国立博物館、1999年)／「CRAFTING BEAUTY IN MODERN JAPAN」(大英博物館、2007年)／「The Great Japan Exhibition Art of the Edo Period 1600-1868」(Royal Academy of Arts、1981年)／「岐阜県現代陶芸美術館開館記念展Ⅰ 現代陶芸の100年展―第一部「日本陶芸の展開」―」(岐阜県現代陶芸美術館、2002年)／「佐賀県立九州陶磁文化館名品図録」(佐賀県立九州陶磁文化館、1996年)／「サントリー美術館開館記念展Ⅰ 日本を祝う」(サントリー美術館、2007年)／「志野と織部」(サントリー美術館、2007年)／「柴田コレクションⅦ ―17世紀、有田磁器の真髄―」(佐賀県立九州陶磁文化館、1995年)／「柴田コレクションⅡ 資料編」(佐賀県立九州陶磁文化館、1991年)／「Japanese Art from the Gerry Collection in the Metropolitan Museum of Art」(メトロポリタン美術館、1989年)／「JAPANESE WORKS OF ART」(GRACE TSUMUGI FINE ART、2007年)／「Japan 蒔絵―宮殿を飾る 東洋の燦めぎ―」(京都国立博物館、2008年)／「世紀の祭典 万国博覧会の美術」(東京国立博物館、2004年)／「世界を魅了したマクス・ウェア 真葛 宮川香山展」(横浜美術館、2001年)／「Ceramic Art of Japan: One Hundred Masterpieces from Japanese Collections」(シアトル美術館、1972年)／「セラミックス・ジャパン 陶磁器でたどる日本のモダン」(岐阜県現代陶芸美術館、2016年)／「第60回 日本伝統工芸展」(日本工芸会、2013年)／「第61回 日本伝統工芸展」(日本工芸会、2014年)／「鑿の華―光村コレクションの刀装具―」(根津美術館、2017年)／「着想のマエストロ 乾山見参!」(サントリー美術館、2015年)／「茶碗の中の宇宙」(京都国立近代美術館、2016年)／「中国の陶磁」(東京国立博物館、1994年)／「中世の施釉陶器―瀬戸・美濃―」(愛知県陶磁資料館、2002年)／「磁器の技と美―有田そして瀬戸へ―」(愛知県陶磁資料館、1998年)／「東京国立近代美術館所蔵品目録 工芸」(東京国立近代美術館、2003年)／「東京美術倶楽部創立百周年記念 大いなる遺産 美の伝統展」(東京美術倶楽部、2006年)／「陶の詩人 小山富士夫の眼と技」(朝日新聞社、2003年)／「東洋陶磁の展開」(大阪市立東洋陶磁美術館、1999年)／「特別展覧会 京焼―みやこの意匠と技―」(京都国立博物館、2006年)／「特別展 古陶の譜 中世のやきもの―六古窯とその周辺―」(愛知県陶磁資料館 他、2011年)／「特別展 茶の湯」(東京国立博物館、2017年)／「特別展 日本の陶磁」(東京国立博物館、1985年)／「特別展 東山御物の美―足利将軍家の至宝―」(三井記念美術館、2014年)／「富本憲吉展―華麗なる色絵・金銀彩」(奈良県立美術館、2015年)／「日本磁器誕生」(佐賀県立九州陶磁文化館、2016年)／「日本人と茶―その歴史・その美意識―」(京都国立博物館、2002年)／「日本伝統工芸展60回記念 人間国宝展 生み出された美、伝えゆくわざ」(日本工芸会、2013年)／「日本伝統工芸60回記念 工芸からKŌGEIへ」(東京国立近代美術館、2013年)／「日本の美 三千年の輝き ニューヨーク・パーク・コレクション展」(MIHO MUSEUM、2006年)／「仁阿弥道八」(サントリー美術館、2014年)／「塗りの系譜」(東京国立近代美術館、1993年)／「根津美術館蔵品選 茶の美術編」(根津美術館、2010年)／「はじまり、美の饗宴 すばらしき大原美術館コレクション」(学研 G-ART PROJECT、2016年)／「美食もてなしの芸術 北大路魯山人展」(朝日新聞社、1996-97年)／「備前焼の魅力」(茨城県陶芸美術館、2004年)／「美の求道者・安宅英一の眼―安宅コレクション」(大阪市立東洋陶磁美術館、2007年)／「美の伝統 三井家 伝世の名宝」(三井記念美術館、2005年)／「広田不孤齋コレクション 鑑賞陶器編」(東京国立博物館、2007年)／「フランスが夢見た日本」(東京国立博物館、2008年)／「文化財保護法50年記念 日本国宝展」(東京国立博物館、2000年)／「文明開化のやきもの・欧米を風靡したジャポニズムへ 明治のやきもの」(滋賀県陶芸の森、1996年)／「誇り高きデザイン 鍋島」(サントリー美術館、2010年)／「没後100年宮川香山」(サントリー美術館・大阪市立東洋陶磁美術館、2016年)／「三井記念美術館蔵品目録 永樂の陶磁器 ―了全・保全・和全―」(三井記念美術館、2006年)／「水―神秘のかたち」(サントリー美術館・龍谷大学龍谷ミュージアム、2015年)／「水と生きる」(サントリー美術館、2007年)／「三井家の名碗三十撰」(三井記念美術館、1995年)／「魅惑の赤、きらめく金彩 加賀赤絵展」(松坂屋美術館、2013年)／「明治・大正時代の日本陶磁―産業と工芸美術―」(瀬戸市美術館、2012年)／「明治の人間国宝」(愛知県陶磁資料館、2010年)／「桃山陶の華麗な世界」(愛知県陶磁資料館、2005年)／「わざの美」(日本工芸会、2003年)

その他書籍

『CHRISTIE'S FINE CHINESE CERAMICS & WORKS OF ART PART II』(CHRISTIE'S, 2015年) / 『Crafting Beauty in Modern Japan: Celebrating Fifty Years of the Exhibition of Japanese Art Crafts』(Nicole Rousmaniere / The British Museum Press, 2007年) / 『FINE JAPANESE ART; Thursday 17 May 2018』(Bonhams, 2018年) / 『Japanese Art and Design』(V&A Publishing, 2015年) / 『Japanese & Oriental Ceramic』(Hazel H. Gorham, Tuttle Publishing, 2012年) / 『Japanese Studio Crafts: Tradition and the Avant-Garde』(Rupert Faulkner / Laurence King, 1995年) / 『Handmade Culture: Raku Potters, Patrons, And Tea Practitioners In Japan』(Morgan Pitelka, University of Hawaii Press, 2005年) / 『History of Japanese Art』(Penelope Mason, Prentice Hall, 2004年) / 『Sotheby's 蘇富比 HONG KONG IMPORTANT CHINESE ART』(サザビーズ, 2015年) / 『The Great, Art of the Edo Period 1600-1868 Paperback – 1981』(William WATSON / Royal Academy of Arts London, 1981年) / 『THE JAPANESE POTTERY HANDBOOK Revised Edition』(Penny Simpson, Lucy Kitto, Kanji Sodeoka, Ken Matsuzaki, Philip Leach, Kodansha USA, 2014年) / 『国宝 7 工芸 II』(文化庁・毎日新聞社, 1988年) / 『和英対照日本美術用語辞典』(東京美術, 1990年) / 『100 Masterpieces of Asian Art -from the Tokyo National Museum Collection』(東京国立博物館, 2009年)

論文

『Facing Modern, Times, Revival Japanese Lacquer Art 1890-1950』(Dees, Jan, Languages and Cultures of Japan, Faculty of Arts, Leiden University, 2007年)

美術館、ギャラリー公式Webサイト

愛知県陶磁美術館 / アムステルダム国立美術館 / 石川県九谷焼美術館 / 石川県立伝統産業工芸館 / 石川県立美術館 / 石川県輪島漆芸美術館 / ヴィクトリア&アルバート博物館 / 江戸東京博物館 / MOA美術館 / 大阪市立東洋陶磁美術館 / 大原美術館 / 大樋美術館 / 金沢21世紀美術館 / ギメ東洋美術館 / 九州国立博物館 / 京都国立博物館 / クリーブランド美術館 / 独立行政法人国立美術館 / 五島美術館 / 古美術 石泉 / サントリー美術館 / シカゴ美術館 / 瀬戸染付工芸館 / 大英博物館 / デンバー美術館 / 東京藝術大学大学美術館 / 東京国立近代美術館 / 東京国立博物館 / 東京都庭園美術館 / 東京富士美術館 / 戸栗美術館 / 栃木県立美術館 / 長崎県美術館 / 那覇市歴史博物館 / 日本民藝館 / ニュージールランド国立博物館テ・ノ・パ・トンガレワ / 根津美術館 / 能美市九谷焼資料館 / ハーバード大学美術館 / フリーア美術館 / ベルリン国立アジア美術館 / ボストン美術館 / MacNider Art Museum / MIHO MUSEUM / Museum für Lackkunst / メトロポリタン美術館 / モリカミ博物館 / モンクレア美術館 / 樂美術館 / LIXILギャラリー / リスボン・グルベンキアン美術館

その他Webサイト

Anticstore / e-Yakimono.net / Yale UNIVERSITY LIBRARY Digital Collections / 石川の伝統工芸 / IPPODO TEA (一保堂) / Inbound, Ltd. / Wikipedia / Weblib 辞書 / Explore Japanese Ceramics / AGJ - Authentic Goods from Japan / KAGA旅まちネット / 香川県漆芸研究所 / (株)加藤小兵衛商店 / 金沢旅物語 / 金沢伝統工芸ネット / 可ナル舎 / GALLERY JAPAN / goo辞書 / CHRISTIE'S / 経済産業省: 「伝統的工芸品展 WAZA2015」ニュースリリース英語版 / 国際交流基金 / Japanese Architecture and Art Net Users System / JAPANICAN.com / japan-guide.com / Japan Style / Joan B Mirviss LTD / JNTO JAPAN: the Official Guide / セインズベリー日本藝術研究所 / Ceramics and Pottery Arts and Resources / 伝統工芸青山スクエア / TSUNAGU JAPAN / Terebess Hungary LLC. / 東京藝術大学 / 陶磁器お役立ち情報 ~とろうじ / 東洋陶磁学会 / なな oh! ネット / Hakusan City Ishikawa Tourist Information Guide / 備前焼展 in TOKYO MIDTOWN / ブリタニカ百科事典英語版(オンライン) / 星野友幸 オフィシャルサイト / ほとと石川旅ねっと / Bonhams / 御子柴屏風店 / 水戸忠交易 / 文部科学省: 外国人受け入れのための博物館用語集(英語) / 山中温泉 / THE UNIVERSITY of ADELAIDE Digital Library / LESLEY KEHOE GALLERIES / Lonely Planet / 輪島漆器商工業協同組合

1

日本特有の技や素材をどう訳すか

日本の風土、文化に根ざし、独自に発展や進化したものなどは、異文化においてはそれに適応する言葉がない場合がある。

- ・漆 = ? 西洋の lacquer と日本の漆は成分が違うようだけれど……
- ・蒔絵 = ? makie と書くと「マッキー」と読まれてしまう?
- ・緋襷 = ? 海外にはない独自の技を、どうやって伝える?

日本特有のものは、そのままローマ字で、かつイタリックで表記するのがよいと思う。括弧内でその意味を英語で説明すれば、知識として入っていく。ただ英語の辞書に出ているような言葉、sushi とか sake とかはイタリックにしなくてもいいのではないか。これから覚えてほしい言葉をイタリックにして、意味を説明して覚えてもらおうというスタンスでいいと思う。

[井谷善恵 東京藝術大学特任教授]

固有名詞でなく、かつ英米の主要な辞書に掲載されていない日本語はイタリック体にする。日本語に英訳を併記する場合は、はっきり分かるよう丸括弧で分ける。ハイフンやスラッシュを使うのは混乱を招くので望ましくない。英語訳(日本語)か、日本語(英語訳)かという語順は、各施設の基準に沿って一貫していれば問題ない。

[Joe Earle ボナムズ日本美術部門シニア・コンサルタント、元ジャパン・ソサエティ・ギャラリー (NY) ディレクター、元ボストン美術館東洋部主任部長]

- 推奨 1** ・日本語 + (英語) 例) 漆 = *urushi* (Japanese lacquer)
 ・英語 + (日本語) 例) 漆 = Japanese lacquer (*urushi*)

日本語の表音表記をイタリックでした後、その訳語を () で括って表記する、もしくは訳語の後に日本語の表音表記を () で括って表記する

根津美術館が開催した刀装具の展覧会「鑿の華」(2017年)において、「太刀 銘 長光」を「*Tachi Sword by Nagamitsu*」、「脇指 銘 為継」を「*Wakizashi Sword by Tametsugu*」と翻訳した。

「鑿の華 — 光村コレクションの刀装具 —」(根津美術館、2017年)に掲載されている英訳例

- ・刀 = *Katana Sword*
- ・太刀 = *Tachi Sword*
- ・小刀 = *Chiisagatana Sword*
- ・脇指 = *Wakizashi Sword*

刀の展覧会するとき *Tachi* をイタリックにして *Tachi Sword* と言った。刀は *Katana Sword*、小刀は *Kogatana Sword*、脇差しなら *Wakizashi Sword*。sword にはこんなに種類があると伝えたい思いもあるし、展示を見ながら言葉を覚えていただき、少しずつでも浸透してほしいという思いもある。意味を説明するときは、ハイフンでつなぐのではなく、基本的には括弧に入れる。

[西田宏子 根津美術館顧問]

英語でも日本語でも、使用する用語は対象者の教育水準を加味して選択する。論文における書き方としては、私は *makie* (sprinkled design) のように、日本語の用語をイタリックで表記し、続いて括弧の中に英訳を記す(少なくとも、その用語が最初に出てくるときには必ず)。より専門知識の少ないものを対象とする場合には、その逆の表記を用いる。また日本語(イタリック)+ (英訳) の、英訳の括弧を省くこともある。たとえば、*makie sprinkled design*。こうすることで、テキスト内に括弧が増えすぎてしまうことを避けられる。

[Jan Dees Heinz Kaempfer Fund 共同設立者、会長]

推奨2 日本語 + 英語の合成 例) 太刀 = *tachi sword*

日本独自の概念を表す言葉を表音表記で記し、英語にある一般名称を加える

COLUMN 1

「人形」はおもちゃ? 「茶杓」はスプーン?

英単語をあてはめることで元来の意味や背景が抜けてしまう

人形とドール

British Museum で日本の工芸を展示したとき、人形部門の展示を却下されかけたことがあった。つまり人形イコール “doll” で、doll は玩具であってアートではないというのが先方の言い分。最終的には「人形というのは日本語では『人の形』と書く。日本人にとっては玩具ではない」と説明して、やっと入れてもらえた。やはり言葉の背景をある程度わかってもらわなければならない。人形イコール “doll” にするだけでは、抜け落ちてしまうものがある。

茶杓 ≡ バンブー・スプーン、バンブー・スクープ

茶杓の素材と形を英語で伝えるにはバンブー・スプーンだととてもわかりやすいが、私たちが背負っている、茶杓に対する文化的な思いやありがたみは込められない。工芸の用語を英訳するにあたって、日本の文化を背景にしたものにするのか、バンブー・スプーンのように即物的なわかりやすさをとるのか、そういった指針がないと、かなり混乱してしまう。




[井谷善恵 東京藝術大学特任教授]

COLUMN 2

「jar」と「牛」—— 英語にないもの、日本語にないもの

英語にないもの

日本で古来使われてきた容器のうち、丸みがあり、上に開口部を持つ器には、さまざまな形状のバリエーションがある。それぞれ違う名前を持つが、英語ではすべて “jar” と呼ばれる。訳すときには「jar + 用途を説明する言葉」にすると、もとの日本語により近い意味になる。水指は「fresh water jar」、建水は「waste water jar」、香合は「incense jar」、弥生土器の場合、壺は「jar for storage」、甕は「jar for cooking」というように。

日本語		<p>うずくまる 「蹲」</p> <p>掌の上に載るほどの小型のもの。人が^{うずくま}蹲った姿に似ていることからその名がついた。狭い空間に置くための器。</p>
		<p>「壺」</p> <p>容器の肩が大きく膨らみ、開口部が小さくすぼまったもの。肩よりも底部が狭いのが特徴。口が小さいのは、保管に適した形であるため。より大型の「大壺」、もともと携帯用の酒壺として使われた、胴が扁平の「扁壺」、葉茶を保管するための「茶壺」などがある。[jar for storage (弥生土器の場合)]</p>
		<p>「甕」</p> <p>口縁が大きく開いているもの。中身を攪拌したり、頻繁に出し入れしたりしやすい形となっている。主に水など大量の液体を貯蔵、保管するほか、液体以外のものの保管にも使われた。[jar for cooking (弥生土器の場合)]</p>

英語では
すべて“jar”





「水指」 茶道の点前に使う、水を蓄えておくための容器。円筒形が多く、蓋が付いているものもある。[fresh water jar]



「建水」 水指の水を使った後に捨てこぼす容器。水を捨てやすいよう、口が大きく開いている。[waste water jar]

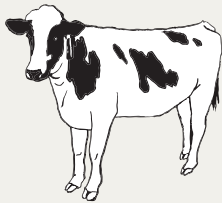


「合子(香合)」 茶道具、また仏具の一種で、香を収納するための蓋付容器。[incense jar]

日本語にないもの

英語では牛について、雌雄の別はもちろん、雄の去勢の有無、年齢、食用かどうかによって全く別の言葉を持つ。また雄牛の呼び方は多様で、雌に比べるとはるかに多い。しかしそれらは日本語ではすべて「牛」と呼ばれる。

日本語では
すべて「牛」



“cow” 日本で言う「牛」を指す一般的な言葉



“cattle” 家畜としての牛



“calf” 生後1年半の子牛



“bull” 去勢していない雄牛



“ox” 去勢した雄牛



“bullock” 4歳以下の去勢牛



“steer” 去勢した食用の子牛



“heifer” (若い) 雌牛



“beef” (食用の) 牛肉



“veal” (食用の) 子牛肉



“buffalo” 水牛



“bison” バイソン



“bovine” ウシ属の動物



陶器 = ceramic? stoneware? raku? 伝わりにくいニュアンスの違い

日本語から見ると、間違っただ訳語が定着してしまったもの

メトロポリタン美術館などにある素材の説明では、乾山の作品が“stoneware”すなわち「炆器」とされてしまっている。日本の国立の博物館でもガイドラインの訳語をそのまま使っているものもあるが、これは明らかに陶器とは異なるもの。ドイツ炆器や、ライン炆器と同じ意識でとらえられると扱ひも変わってきてしまう。違うということを根気よく訴え続けることによって、変えられないものだろうかと思う。

[西田宏子 根津美術館顧問]

アメリカでは今、高温焼成のやきものはすべて“stoneware”と呼ばれている。20数年前には曖昧だったのが、10数年前に“stoneware”で統一され、それが人々の意識に定着してしまった。一度定着したものを覆すのは簡単ではないことは、たとえば我々が和製英語の「ナイター」を急に「正しくナイトゲームと呼ぼう」と言われても難しいのと同じだろう。

また、アメリカでは専門家やある程度楽のことを理解している人は、それとは別に磁器ではない土ものを Raku ware と呼んでいる人が多い。日本人からすると明らかに楽焼ではないものも、すべて Raku ware。それも stoneware と同じく定着してしまっていて、やはり覆すのは難しい。

[深井桂子 Keiko Art International 代表]

磁器以外は stoneware で定着している。彼らにはイメージできるやきもの。それはもう仕方がないのではないか。

[蓑豊 兵庫県立美術館館長]

2

「〇〇焼」「〇〇塗」をどう訳すか

いま公的な機関で使われている、目の前の英語の中にも伝わらないものがあります！

産地名を冠した工芸品を英語で紹介する場合、基本的には技法名(英訳)の前に、地名(ローマ字)をつける。しかし、国内外の美術館の展覧会カタログやWebサイト、観光ガイド、海外旅行者向けWebサイトなどでは、一つの言葉に対して十数通りの訳語が使われているのが実情。

九谷焼はKutaniyaki?

輪島塗はWajima-Nuri?

加賀箔はKanazawa Golden leaf?

琴はkoto? harp?

牛首紬はUshikubi-Tsumugi?

基本ルール

地名の日本語 + 種類・形・技法を表す英語

1. 地名を表音表記し、その後ろに「焼」や「塗」にあたる種類・形・技法を表す訳語を表記する
(「^{ぬり}塗」「^{つむぎ}紬」「^{こと}琴」など、日本語の用語を表音表記する場合はイタリックにする)
2. 基本事項として
(産地名) ware ▶ 食器が中心に伝わる
(産地名) craft ▶ 食器以外の用途が中心

×: 訳語として不適切なところがある / ○: 訳語として適切 / ×○: 訳語として不適切・適切両方の意見がある

ここに挙げる事例は現在公的な機関(美術館、博物館、研修所、観光案内など)が使用するものから示しており、適切な表現は他にも存在する。

陶器

例) 九谷焼

- × Kutaniyaki ceramics ▶ 同じ意味を繰り返しているため訳語としてふさわしくない
(“yaki” と “ceramics”)
- × Kutani-yaki ceramics ▶ 同じ意味を繰り返しているため訳語としてふさわしくない
(“yaki” と “ceramics”)
- × Kutani-yaki porcelain ▶ 同じ意味を繰り返しているため訳語としてふさわしくない
(“yaki” と “porcelain”)
- × Kutani ware ▶ 九谷は地名なのでイタリック体にしない
- × Kutani chinaware ▶ “chinaware” は文化的に誤りで混乱を招く
- × Kanazawa Kutani pottery ▶ pottery は英語では独特なニュアンスのある語なので避けた方が無難



- × Kutani ceramics ▶九谷焼全体を指す場合など、特殊な例をのぞいて複数形にはしない
- Kutani ware
- Kutani Ware ▶タイトルなどに使う場合は語頭を大文字にしてもよい
- Kutani-ware ▶形容詞的に使う場合はハイフンでつなぐのも可。しかしハイフンは嫌がられることも
- Kutani ceramic
- Kutani porcelain ▶porcelain でもよいが、文中で ware, porcelain, ceramic が混在しないよう
どれかに統一する

推奨 ~焼: ~ware, ~ceramic

漆器

例) 輪島塗

- × Wajima urushi lacquer ware ▶“urushi lacquer” は意味の重複になるので不適當
- × Wajima-nuri ▶日本語だけでは伝わらない
- × wajimanuri ▶語頭が小文字なのは間違い
- Wajima lacquerware
- Wajima lacquer ware
- Wajima lacquer
- Wajima *nuri* (Wajima lacquerware) ▶地名はイタリックにする必要はないが、用語 (*nuri*) はイタリックに



推奨 ~塗: ~lacquerware, ~lacquer ware

例) 金沢漆器

- × Kanazawa urushi lacquer ware ▶“urushi lacquer” は意味の重複になるので不適當
- × Kanazawa lacquerware craft ▶“lacquerware craft” は意味の重複になるので不適當
- × Kanazawa’s lacquer ware
- × Kanazawa shikki lacquerware ▶“shikki” はイタリックに
- Kanazawa lacquerware
- Kanazawa lacquer ware
- Kanazawa *shikki* (lacquerware)



推奨 ~漆器: ~lacquerware, ~lacquer ware

織物

例) 牛首紬

- × Ushikubi-tsumugi
- × Ushikubi-tsumugi textiles
- × Ushikubi pongee ▶英語を母語としている人々のなかでも“pongee” (絹紬) という言葉を知っている人は少ない。“raw silk” などのわかりやすい訳語にするべき



○ Ushikubi *tsumugi* (raw silk)

推奨 ～紬:～*tsumugi* (raw silk)

染色品

例) 加賀友禪

- × Kaga yuzen silk
- × Kaga yuzen silk dyeing
- × Kaga yuzen dyeing
- × Yuzen-dyeing ▶ハイフンを用いるときは形容詞となるため、“Yuzen-dyeing” 単体では不可
- Kaga silk dyeing
- Kaga *yuzen*
- Kaga-*yuzen* silk dyeing
- Kaga *yūzen*

推奨 ～友禪:～*Yūzen* silk dyeing, ～silk dyeing, ～yuzen silk dyeing



木工品・竹工品

例) 加賀檜細工

- × Kaga cypress wickerwork ▶“wickerwork” (小枝細工) は一般的に柳細工を指すため、檜に用いるのは違和感がある
- × Japanese cypress handicraft
- Kaga cypress plaiting
- Kaga cypress woven work

推奨 ～檜細工:～cypress plaiting, cypress woven work



金工品

例) 加賀象嵌

- × Kaga inlaying
- × Kaga zogan inlay / decorate by inserting metal ▶文法的に正しくない
- Kaga *zōgan* (metal-inlay decoration)
- Kaga inlay

推奨 ～象嵌:～inlay, ～*zogan* (metal-inlay decoration), ～*zōgan* (metal-inlay decoration)



例) 金沢仏壇

- × Kanazawa household Buddhist altar ▶“Buddhist household”のほうが用語・語順ともにベター

- × Kanazawa butsudan (Buddhist home altar)
- Kanazawa Buddhist altar
- Kanazawa Buddhist household altar

推奨 仏壇・仏具、～仏壇:～Buddhist altar, ～Buddhist household altar



工芸材料・工芸用具

例) 金沢箔

- × Kanazawa Gold leaf ▶大文字と小文字が混在
- × Kanazawa golden leaf ▶英語として違和感がある
- × Kanazawa metal leaves ▶不自然で違和感がある
- Kanazawa gold leaf
- Kanazawa-*haku* gold-leaf crafting
- gold leaf from Kanazawa
- gold leaf
- *kinpaku* (gold leaf)

推奨 ～箔:～gold leaf



「名称 from 地名」という表記

九谷焼や有田焼のように、古くからあり定着しているものは「地名+技法名・形状名」でよいが、地名がどこなのかわからないこともある。「技法名 from 地名」のほうが、誰にでも伝わらと思う。

ex. Gold leaf from Kanazawa

[蓑 豊 兵庫県立美術館館長]

その他の工芸品

例) 加賀毛針

- × Kaga artificial flies
- × Kaga decorative fishing flies bait ▶“fishing flies”にはすでに“bait”の意味が含まれているので、“bait”は不要
- Kaga fishing flies
- Kaga fishing lures

推奨 ～毛針:～fishing flies, ～fishing lures



例) 金沢郷土玩具

- local toy
- Kanazawa local toy
- Kanazawa traditional toy
- Kanazawa traditional local toy

推奨 ～郷土玩具:～local toy, ～traditional toy



例) 金沢琴

- × koto (Japanese harp) ▶ 琴 = “harp” ではない
- Kanazawa koto (Japanese zither)
- koto - a Japanese zither
- Kanazawa Japanese zither (koto)

推奨 ~琴: ~koto (Japanese zither)

※ 琴は“koto”として英語で知られており、辞書にも載っているのでイタリックにはしない



例) 金沢三弦

- × Kanazawa sangen (three string instrument) ▶ “three-stringed” とする
- × sangen - a Japanese banjo ▶ “banjo” はアメリカ南部を連想させる
- Kanazawa *sangen* (three-stringed musical instrument)
- *sangen* (three-stringed musical instrument)

推奨 ~三弦: ~*Sangen* (three-stringed musical instrument)



例) 加賀獅子頭

- × Kaga lion dance mask ▶ ハイフン必要 lion-dance
- Kanazawa lion-dance mask
- Kaga *shishigashira* (Lion Head)
- Kaga lion head
- Kaga lion mask

推奨 ~獅子頭: ~lion mask, ~lion-dance mask, ~lion head



例) 加賀水引細工

- × Kaga mizuhiki (paper wire) ▶ 具体的なイメージがわからない
- × Kaga mizuhiki / decorate with strings
- × Kaga mizuhiki - ceremonial package strings
- Kaga *mizuhiki* string craft
- Kaga *mizuhiki* (decoration with paper rope) ▶ 加賀水引細工の素材は紙なので、厳密に言うとも “string” よりも “rope” のほうが適切
- ▶ “paper string” とすれば申しぶんない
- Kaga *mizuhiki* (ceremonial package rope)
- Kaga *mizuhiki* rope

推奨 ~水引細工: ~*mizuhiki* rope, ~string craft, ~*mizuhiki* (decoration with paper strings), ~*mizuhiki* (ceremonial package strings)



3

「私は〇〇家(師)です」をどう訳すか 職業を英語で称する

海外の人に、工芸のつくり手を紹介する場合(あるいは本人が自己紹介する際)、どのような言葉を使えば誤解を生ずることなく伝えられるのか。

私は絵付け師です “I’m a painting worker.”

絵付けはpaintingでいいのでしょうか……

彼は塗師です “He is a painter.”

漆を塗る専門の職人は?

あなたは蒔絵師ですか? “Are you makie-shi?”

日本独自の加飾方法の職人を何と言うか

陶芸家

- × pottery maker
- ×○ potter ▶ろくろを使ってやきものをする人というイメージ
- ceramic artist
- ceramist
- ceramicist

絵付け師／絵付け職人

- × painting craftsman
- ceramic painter
- ceramic decorator

塗師

- × nushi ▶説明が必要
- × lacquer *nurishi*
- × lacquer painter
- lacquerer

上塗師

- × final coater ▶意味が通じない。詳しい説明が必要
- specialist who applies the final coats of lacquer

中塗師

- × middle coater ▶意味が通じない。詳しい説明が必要
- specialist who applies the middle coats of lacquer

下地塗師

- × primers ▶意味が通じない。詳しい説明が必要

- specialist who applies the base coats of lacquer

漆芸家

- × Japanese lacquer artist
- lacquer artist

蒔絵師

- × makie-shi ▶英語の説明が必要。またmaki-eとハイフンで区切らないと正しく発音されない
- × makie craftsman
- × makie artisan
- specialist in lacquer decoration using metal powders
- *maki-e* artisan
- *makie* artisan
- *makie* artist
- *maki-e* artist

沈金師

- × *chinkin* artisan ▶沈金の説明が必要
- specialist in engraved lacquer and gold-leaf decoration
- gold-inlaid lacquerware artisan

木地師

- × basemaker
- woodcarver
- wood carver

鋳師

- × precious metal smith ▶意味が伝わらない
- specialist in precious-metal decoration

轆轤師

- × lathe operator ▶自動車工場の技師のような印象
- turner

蠟色師

- × roiro artisan ▶蠟色の説明が必要
- × roiroshi who are dedicated solely to 'roiro' (polish)
- specialist in polished black-lacquer finish

4

作品名、作者名、時代、所蔵の表し方

作品名、作者名、時代、所蔵などは、展示のキャプションや図録などに情報を掲載する際、英訳が求められる部分である。それぞれ、どのような訳が適しているのだろうか。

①タイトル（作家が名付けた名称）の表記方法 3つのパターン

シンプルな表記

タイトル（斜体のみ）

例) *Four Seasons*

形状と合わせたシンプルな表記

「器」, “タイトル”（クォーテーションマークで囲む）

※クォーテーションマークの中は斜体にしない

※クォーテーションマークはシングル（英国式）でもダブル（米国式）でもいいが、
展示や図録で表記をどちらかに統一すること

例) Vase, ‘Four Seasons’

形状と合わせ、ていねいな表記

「器」, Named “タイトル”

例) Vase, named “Four Seasons”

「器」, entitled タイトル（斜体）

例) Vase, entitled *Four Seasons*

②銘

例) 銘「卯花牆」

国宝の茶碗「卯花牆」は展示会のたびに異なる英訳が付与される顕著な例のひとつ。
銘はどのように表現すれば伝わりやすいのだろうか。

- × known by the name of U-no-hana-gaki ▶ハイフンの使い方が不適切
- × known as U-no-hana-gaki ▶ハイフンの使い方が不適切
- × named ‘Unohana-gaki (deutzia flowers in fence)’ ▶ハイフンの使い方が不適切
- × Known as U no Hanagaki
- × Known as *Unohanagaki* (“deutzia shrubs”)
- ×○ known as “Unohanagaki” ▶クォーテーションマークは日本語には使用しない
- ×○ named Unohanagaki ▶誰かに名付けられたように聞こえる
- Known as Unohanagaki (Fence with Deutzia Flowers)

推奨 known as～

③作者名

日本人の名前表記順

ここではさまざまな意見がある。

国によって色々なパターンがあって、統一するのは難しい。Kutani Shoza / Shoza Kutani / KUTANI, Shoza と3パターンぐらい用意して、選択できるようにすればいいのでは。

[平野龍一 サザビーズジャパン代表取締役]

メトロポリタンやボストンなどの大きな美術館はすべて「苗字→名前」の順。¹

小さな美術館は逆で、「名前→苗字」の順。²

カンマを入れると最初は苗字ということがわかるので、クリアではあるが、やはり不自然さがある。

日本人の場合は「苗字→名前」の順だということを、もっと知ってもらわなくては。中国、韓国は自国の順番「苗字→名前」で通しているのに、日本人だけが西洋風に合わせている。本来の順にするのが望ましいと思うが、いっぽうで海外在住の日本人がキュレーションをした場合、どうしても「名前→苗字」の順で仕事をすることになる。だがその展覧会に出品した日本人作家の表記が「苗字→名前」だと、混乱を招く可能性はある。

[深井桂子 Keiko Art International 代表]

大英博物館の場合は、日本人は「苗字→名前」という順番で表記。³

[内田ひろみ 大英博物館アジア部日本セクションプロジェクトマネージャー]

ベトナムとかタイなど、一部の東南アジアの国々の人の場合は、苗字がはっきりわかるようにカンマを入れてもらえるとありがたい。⁴

[井谷善恵 東京藝術大学特任教授]

工芸館では管理システム上や作品目録上では作家の苗字は大文字表記。⁵

[野見山 桜 東京国立近代美術館工芸課デザイン室客員研究員]

苗字大文字を推奨する。でないと外国人にはわかりにくいので。

[Sophie Richard 美術史家]

他に苗字を大文字にして下線を引くパターンもある。⁶

[金子智慧美 クラウドファンディング・ラボラトリー(株)ソーシャルファイナンス研究所]

作家の表記で、苗字を大文字で記す昨今の風潮は断固避けるべき。⁷

キャプションやラベルに“by”を使うのは違和感がある。⁸

多くの美術館の日本人作家名表記では、1900年頃以降の作家の場合、西洋風に「名前→苗字」の順にしている。近代以前の、伝統的な作家は「苗字→名前」の順で表記する。

[Joe Earle ボナムズ日本美術部門シニア・コンサルタント、
元ジャパン・ソサエティ・ギャラリー(NY)ディレクター、元ボストン美術館東洋部主任部長]

作家の名前の前に“by”をつけるのは、文章の中ではいいが、キャプションでは不要。⁹

[深井桂子 Keiko Art International 代表]

例) 九谷庄三

- | | |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| ×○ By Shoza KUTANI | ×▶ 苗字を大文字にするのは避けるべき ㊦
“by”を使っている ㊤㊨ |
| | ○▶ 「名前→苗字」の順 ㊧ |
| ×○ KUTANI Shoza | ×▶ 苗字を大文字にするのは避けるべき ㊦ |
| | ○▶ 「苗字→名前」の順 ㊤㊨
作家の苗字は大文字表記にする ㊦ |
| ×○ KUTANI, Shoza | ×▶ 苗字を大文字にするのは避けるべき ㊦ |
| | ○▶ 「苗字→名前」の順 ㊤㊨
作家の苗字は大文字表記にする ㊦
カンマを入れて苗字をはっきりさせる ㊢ |
| ×○ <u>KUTANI</u> , Shoza | ×▶ 苗字を大文字にするのは避けるべき ㊦ |
| | ○▶ 「苗字→名前」の順 ㊤㊨
作家の苗字は大文字表記にする ㊦
カンマを入れて苗字をはっきりさせる ㊢
苗字を大文字にして下線を引く ㊤ |
| ○ Shoza Kutani | ○▶ 「名前→苗字」の順 ㊧ |
| ○ Kutani Shoza | ○▶ 「苗字→名前」の順 ㊤㊨ |

推奨 カタログやキャプションの場合は **by+名前** と表記するケースが多い。ただし生没年を付記したり、書体を変えたりすることにより、あきらかに名前とわかる場合は、そのかぎりではない。

④時代

江戸時代(19世紀)の場合、江戸時代がいつからいつまでかをはっきりさせる。▶ Edo period (1615-1868), 19th century ㊤

Centuryなどの表記は“c”と省略しない ㊧

“period”は後世の学者が名づけるもので、時代の初めに名づけることができる元号などは“era”(Edo period, Meiji eraとする) ㊤

時代の語順も大枠から順に細部へが原則 (Muromachi period, 15th centuryなど) ㊢

[Joe Earle ポナムズ日本美術部門シニア・コンサルタント、元ジャパン・ソサエティ・ギャラリー (NY) ディレクター、元ボストン美術館東洋部主任部長]

基本的には「period, 世紀」。明や江戸など、300年くらい続いた時代は数字で年代を併記する。㊦

作品に年代がはっきり書かれているときも、その数字を書くことがある。㊤

また、19世紀後期などは the late 19th century ではなく、late 19th century でいいようだ。㊦

[平野龍一 サザビーズジャパン代表取締役]

時代の長い、短いにかかわらず、いずれも数字で年代を併記した方がわかりやすい。

[Milosz R. Wozny 東京国立博物館国際交流室専門職]

quarter や third quarter の表記は違和感がある。㊦

時代については、一般的に period を使うという事で統一していいと思う。そして但し書きで「明治は Meiji era と書くことが多い」と付け加えればよい。

[西田宏子 根津美術館顧問]

日本語表記で「江戸時代(19世紀)」という場合は、外国の方に「江戸時代=19世紀」という誤解を与える可能性がある。㊧

[野見山 桜 東京国立近代美術館工芸課デザイン室 客員研究員]

period+years で Edo Period (1615-1868) とする。㊨

[及部奈津 ミシガン大学美術館アジア美術キュレーター]

Edo period, Meiji era など日本の名称だけでなく、何世紀かを併記しないとわからないと海外からの来館者に言われたことがある。㊩

[大槻倫子 滋賀県立陶芸の森陶芸館 主任学芸員]

例) 江戸時代中期(18世紀)

- × Edo period ▶日本の名称だけではいつの時代なのかわからない ㊬
- × Mid-Edo period ▶(1615-1868)を明記していないため、江戸時代の期間がいつからいつまでかがはっきりしない ㊪
日本の名称だけではいつの時代なのかわからない ㊬
- ×○ Late 18c., Edo period
 - ×▶(1615-1868)を明記していないため、江戸時代の期間がいつからいつまでかがはっきりしない ㊪㊫
 - Centuryの表記は“c”などと省略しない ㊰
 - 「大枠→細部」の順に表記されていない ㊱
 - ▶日本の名称だけでなく、何世紀かを併記する ㊬
- ×○ 18th century, Edo period
 - ×▶(1615-1868)を明記していないため、江戸時代の期間がいつからいつまでかがはっきりしない ㊪㊫
 - 「大枠→細部」の順に表記されていない ㊱
 - ▶日本の名称だけでなく、何世紀かを併記する ㊬
- ×○ Edo period, 18th C.
 - ×▶(1615-1868)を明記していないため、江戸時代の期間がいつからいつまでかがはっきりしない ㊪㊫
 - Centuryの表記は“c”などと省略しない ㊰
 - ▶「大枠→細部」の順に表記されている ㊱
 - 日本の名称だけでなく、何世紀かを併記する ㊬

×○ Edo period, second-fourth quarter of 18th century

×▶ (1615-1868)を明記していないため、江戸時代の期間がいつからいつまでかがはっきりしない ㊦ ㊧
quarter や third quarter の表記は違和感がある ㊨

○▶ 「大枠→細部」の順に表記されている ㊩
日本の名称だけでなく、何世紀かを併記する ㊬

×○ Edo period, 18th century

×○ Edo period (18th century)

×○ Edo period (late 18th century)

×○ Edo period, latter half of the 18th century

×▶ (1615-1868)を明記していないため、江戸時代の期間がいつからいつまでかがはっきりしない ㊦ ㊧

○▶ 「大枠→細部」の順に表記されている ㊩
日本の名称だけでなく、何世紀かを併記する ㊬

×○ Edo period, dated Kansei 3 (1791)

×▶ (1615-1868)を明記していないため、江戸時代の期間がいつからいつまでかがはっきりしない ㊦ ㊧

○▶ 「大枠→細部」の順に表記されている ㊩
作品に年代がはっきり書かれていたら、その数字を書く ㊫

×○ Edo period, early 18th century

×▶ (1615-1868)を明記していないため、江戸時代の期間がいつからいつまでかがはっきりしない ㊦ ㊧

○▶ the late 18th century ではなく、late 18th century ㊴
「大枠→細部」の順に表記されている ㊩
日本の名称だけでなく、何世紀かを併記する ㊬

○ 1st half of the 18th century

▶ 日本語表記で「江戸時代(18世紀)」という場合でも、外国の方に「江戸時代=18世紀」という誤解を与えないよう(実際は17世紀から19世紀)、ただ18th century としたほうがよい ㊭

○ Edo period (1615-1868), 19th century

▶ 江戸時代の期間がいつからいつまでかがはっきりわかる ㊮
「大枠→細部」の順に表記されている ㊩

period + years で Edo period (1615-1868) とする ㊯
日本の名称だけでなく、何世紀かを併記する ㊬

明や江戸など、300年くらい続いた時代は数字で年代を併記 ㊰
period+years で Edo Period (1615-1868) とする ㊯

例) 江戸時代以外

明治後半

- Second half of the Meiji era (early 20th century)

明治27年(1894)

- Meiji period, dated 1894

明治35年(1902)頃

- Meiji period, ca.1902

文政7年(1824)・文政8年(1825)

- Edo period, dated 1824 and 1825

19世紀後半～20世紀初頭

- Late 19th - early 20th century

・period

縄文や弥生のように時代の始まりと終わりがゆるやかな時代区分を指す
時代の期間が終わってから、後世になって名づけられる

・era

寛政、明治、平成など、政権や元号などによって始まりと終わりの明快な時代区分を指す
その時代が始まるときから名前がある

・contemporary

現代を表す

推奨 和暦と西暦を併記する

(江戸時代のように複数の世紀にわたる場合は、その時代の期間も記載するとおよい)

⑤産地

肥前という言葉は今では使われていないが、固有名詞は残した方がいいと思う。説明が必要であれば、括弧に現在の地名を入れるというのは、あり。¹⁾

上記の例のなかでは、Arita kiln, Hizenが一番いいと思う。kiln はひとつの窯を指すのではなく、かなり広い範囲まで使える言葉。wareというと、器という感じが強い。

[平野龍一 サザビーズジャパン代表取締役]

・情報は太字から細部へ ²⁾

・固有名詞が何なのか (Provinceか、Prefectureか、Townか、kilnかなど) はっきりさせる

・地名に付く Province、Prefectureなどは大文字で始める

・Pref.などの不必要な省略は避ける ³⁾

[Joe Earle ボナムズ日本美術部門シニア・コンサルタント、
元ジャパン・ソサエティ・ギャラリー (NY) ディレクター、元ボストン美術館東洋部主任部長]

専門家以外には、Hizen は通じなかった。県名を補足して何とか通じるという状況。 ⁴⁾

[大概倫子 滋賀県立陶芸の森陶芸館 主任学芸員]

〇〇焼というのを〇〇wareと統一するとわかりやすいのでよく使っている。産地は英語の住所表記に倣い、細部から大枠というパターンで。kiln は窯業地の中のどの窯かという細かい指定をするときに使う。ホ

[佐久間 真子 愛知県陶磁美術館 学芸員]

産地は細部から大枠へ表記するのが通例。ホ

[Milosz R. Wozny 東京国立博物館国際交流室専門職]

例) 有田

×〇 Hizen, Arita ware (Nangawarayama kilns)

×▶県名を補足しないと通じない ㊦
「細部→大枠」の順になっていない ホ

〇▶「肥前」という固有名詞を残す ㊦
「大枠→細部」の順になっている ㊦

×〇 Arita kiln, Imari ware, Hizen

×▶県名を補足しないと通じない ㊦
「大枠→細部」の順になっていない ㊦

〇▶「肥前」という固有名詞を残す ㊦
「細部→大枠」の順になっている ホ

×〇 Arita kiln, Hizen

×▶県名を補足しないと通じない ㊦
「大枠→細部」の順になっていない ㊦

〇▶「肥前」という固有名詞を残す ㊦
「細部→大枠」の順になっている ホ

×〇 Hizen Province, Arita Town, Nabeshima, Imayagawachi kiln

×▶県名を補足しないと通じない ㊦
「細部→大枠」の順になっていない ホ

〇▶「肥前」という固有名詞を残す ㊦
「大枠→細部」の順になっている ㊦

×〇 Arita, Hizen (Saga Pref.)

×▶「大枠→細部」の順になっていない ㊦
Prefectureを省略しない ㊦

〇▶「肥前」という固有名詞を残す ㊦
県名を補足 ㊦
「細部→大枠」の順になっている ホ

×〇 Tenjinmori Kiln, Arita, Hizen (Saga Pref.)

×▶「大枠→細部」の順になっていない ㊦

- ▶「肥前」という固有名詞を残す ㊦
- 県名を補足 ㊧
- 「細部→大枠」の順になっている ㊨

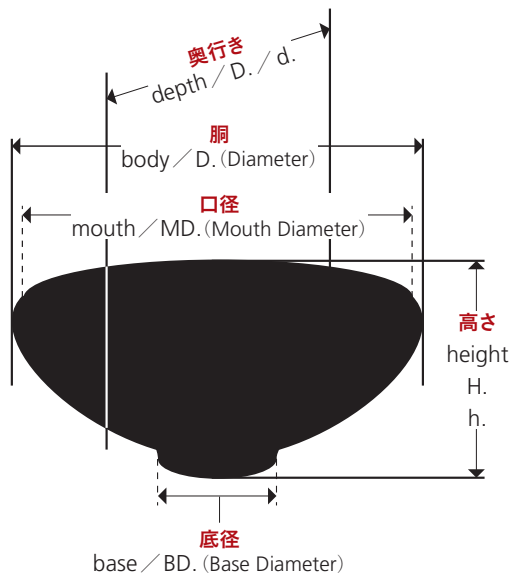
例) 鍋島

- ×○ Okawachi kiln, Hizen
- ×○ Okawachi Nipposha-shita kiln, Hizen
- ×○ Nabeshima official kiln, Okawachi Nabeshima ware, Hizen
- ×○ Iwayagawachi kiln, Arita, Nabeshima ware, Hizen
- ×○ Iwayagawachi kiln, Hizen

- ×▶「大枠→細部」の順になっていない ㊩
- 県名を補足しないと通じない ㊧
- ▶「肥前」という固有名詞を残す ㊦
- 「細部→大枠」の順になっている ㊨

⑦ サイズ

鉢、向付、皿、椀などの寸法の表し方



- ・高さ、胴径、口径、底径 (cm)
- ・高さ、幅、奥行き (cm)

例) 染付白鷺蓮葉文皿

高 5.8 口径 28.8 底径 18.5

Dish with egrets design in underglaze blue on pale blue ground.

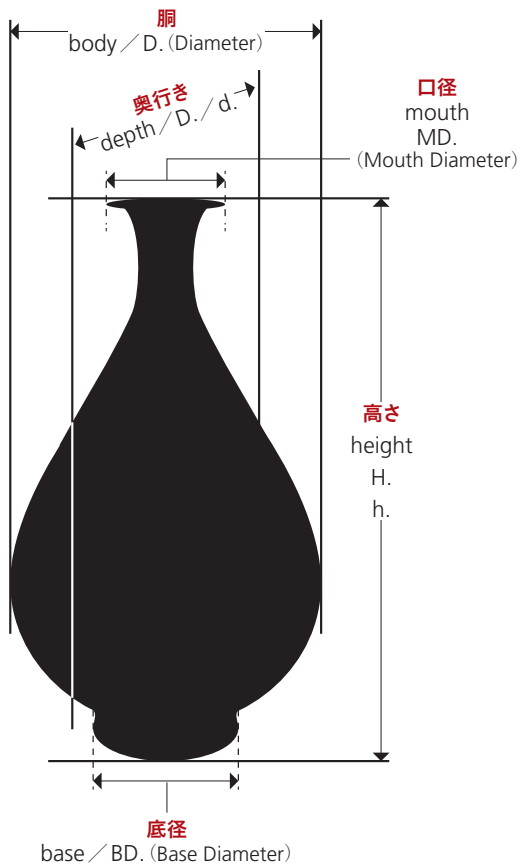
H.5.8 MD.28.8 BD.18.5

梅華皮皿

各 H.2.3 D.16.0

Small square dishes, ash glaze, *kairagi* (shark skin) type each H.2.3 D.16.0

壺、甕、瓶などの寸法の表し方



- ・高さ、口径、胴径、底径 (cm)
- ・高さ、幅、奥行き (cm)

例) 色絵罌粟文茶壺

高29.7 口径10.6 胴径27.2 底径11.6

Tea leaf jar with moon-lit plum blossoms

H.29.7 D.10.6 (rim), 27.2 (body), 11.6 (base)

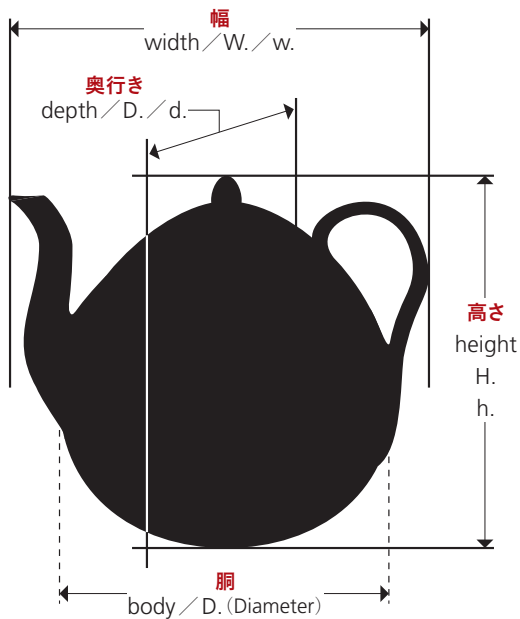
釉裏金彩花壺

H.35.2 D.22.5

Vase, underglaze gold leaves

H.35.2 D.22.5

水注、茶銚などの寸法の表し方



- ・高さ、胴径 (cm)
- ・高さ、幅、奥行き (cm)

例) 水注

H.25.7 W.26.5 D.13.0

Water jar

H.25.7 W.26.5 D.13.0

藍彩水注

H.16.4 D.10.0

Water pitcher, cobalt blue splotches on white

H.16.4 D.10.0

⑧収蔵先

指定文化財

国宝 National Treasure
重要文化財 Important Cultural Property
重要美術品 Important Art Object

美術館所蔵作品の表し方

例) 京都国立博物館蔵
 Kyoto National Museum

寄贈作品の表し方

例) 山田太郎氏寄贈
 Gift of Mr. Taro Yamada

個人蔵作品の表し方

例) 個人蔵
 Private Collection

5

発音記号(ハイフン、マクロン)の使い方

ハイフン

英語のハイフンには「接頭辞と語根を分ける」「複数の語をつなぐ」という主にふたつの用法がある。いずれも厳密なルールはなく、慣例によることが多い。またその慣例は、時間とともに変わることもよくある。ハイフンの使用方法については、英国や米国でも議論が続き、難しい問題である。ここでは両論を併記する。

「ハイフンは少ないほうがいい」

ハイフンは特殊な場合しか使われていないと思う。mother-of-pearlは必ずハイフンが入る。urushi-lacquer dish など、形容詞として使うときにはハイフンがはいるものもあるが、基本使わないほうがよいかと思う。

[平野龍一 サザビーズジャパン代表取締役]

「マッキー」と読み間違えないようにという考えもあるが、*maki-e*と書いても誰も「え」と読まない。間違えたら正しい読み方に訂正して徐々に覚えてもらえばいい。

[西田宏子 根津美術館顧問]

蒔絵に関しては、かつては*maki-e*とハイフンが入っていたが、今はあまり見なくなった。

[井谷善恵 東京藝術大学特任教授]

「ハイフンは必要」

二語の名詞を連ねて形容詞的に使う場合は、必ずハイフンでつなぐ(Kutani-ware dishなど) 日本語に英訳を併記する場合は、はっきりわかるよう丸括弧で分ける。ハイフンやスラッシュを使うのは混乱を招くので望ましくない*maki-e*、*iro-e*、*cha-ire*などはそのままと読み間違えるので、ハイフンを入れるようにする。

[Joe Earle ボナムズ日本美術部門シニア・コンサルタント、元ジャパン・ソサエティ・ギャラリー (NY) ディレクター、元ボストン美術館東洋部主任部長]

英語におけるハイフンの使い方と日本語のローマ字表記におけるハイフンの使い方とはルールが違い、混在させない方がよい。使い方に関するルールを細かく定めたスタイルマニュアルが複数存在しており、どのマニュアルを参考にするか事前に決めれば、統一性を保つことができる。個人的には、英語の場合は「Chicago Manual of Style」、日本語のローマ字表記の場合は「Japanese romanization table - Library of Congress」を参考にしている。

[Milosz R. Wozny 東京国立博物館国際交流室専門職]

マクロン(長音記号)

「マクロンはないほうがいい」

マクロンは最近使わない例のほうが多いと感じる。多くの外国人にとって、マクロンは見たことのない、知らない記号ではないか。逆にマクロンを用いることでわかりにくさを感じさせてしまう危険性の方が大きい。

[平野龍一 サザビーズジャパン代表取締役]

英語では発音記号を併記する習慣がない。

[金子智慧美 クラウドファンディング・ラボラトリ(株)ソーシャルファイナンス研究所]

「対象次第」

マクロンを使うべきかどうかは、対象によると思う。マクロンは英語圏の一般の人々には馴染みが薄いですが、マクロンやアポストロフィを使わずに日本語の正しい読み方を示すことはできず、高い学術的水準を確保するのであれば、マクロンやアポストロフィは必要になる。ボストン美術館、メトロポリタン美術館、フィラデルフィア美術館、大英博物館などはマクロンを使っている。

[Milosz R. Wozny 東京国立博物館国際交流室専門職]

「マクロンは必要」

「おお」「ゆう」などのローマ字表記は、“ō”、“ū”などマクロン(長音記号)を使った表記に統一する。

[Joe Earle ボナムズ日本美術部門シニア・コンサルタント、元ジャパン・ソサエティ・ギャラリー(NY)ディレクター、元ボストン美術館東洋部主任部長]

6

「工芸」をどう伝えるか KogeiとCraft

では、日本の工芸を世界に発信していくためには、「工芸」をどのように訳したらいいのだろうか？ 現在、「工芸」の訳には幾種類もの言葉が使われている。

Kogei

Kogei

Kougei

Kōgei

“KOGEI” Japanese Craft handicraft

Craft

Japanese Craft

工芸

industrial art

arts and crafts

craft art

art craft

craftwork

Decorative Art

工芸という言葉自体が明治時代に便宜的に作り出されたもの。“kōgei”の語にそれほどこだわる必要はない。

[Joe Earle ボナムズ日本美術部門シニア・コンサルタント、
元ジャパン・ソサエティ・ギャラリー (NY) ディレクター、元ボストン美術館東洋部主任部長]

日本独自の文化の上にあるものなので、craftとは別の概念。Kōgeiと表記したい。それでは伝わらない期間はkōgei craftとするのがよく、徐々に認知度をあげてゆくのがよい。

[室瀬和美 漆芸家、重要無形文化財(蒔絵)保持者、日本工芸会 副理事長]

工芸館としては日本の工芸がもつ特殊性を重視したい気持ちがあり、kogeiという言葉も使い始めている。もちろん、kogeiを推進する一方で、状況に応じて外国人に説明するときにはcraftを使うこともある。

[野見山 桜 東京国立近代美術館工芸課デザイン室 客員研究員]

研究者の立場としてはKogeiを使おうと思うが、オークションハウスで“Japanese Kogei”といっても外国の方には通じないため、そういう場合にはcraft等を使うことになる。なかなかすぐに全員一致ということにはならない。

[井谷善恵 東京藝術大学特任教授]

陶芸だけでなく、コンテンポラリーも含めてさまざまなものを扱う仕事をする中で、現代アートでもクラフトでもない、何か新しいものが生まれる可能性を感じることもある。そういった過渡期に、kogeiという言葉によって「こういうものが工芸」と括ってしまうと、新しく生まれようとしているものを塞いでしまうのではないか。日本の工芸は、その精神性も佇まいも、世界に類を見ない素晴らしいものだが、それをジャンル分けしてガチガチに囲ってしまうのが果たしてよいのかどうか、答えが出ない。

[深井桂子 Keiko Art International 代表]

単純に外国人に説明するときには、craftという言い方をする。

[平野龍一 サザビーズジャパン代表取締役]

工芸の呼び名を定着させ、日本のcraftとして補足が必要。

[高 禎蓮 彦十蒔絵]

日本の工芸とまったく同じ意味にあたる英語は存在しないので、craft と言うときに、工芸との微妙なニュアンスの違いを説明する必要がある。

[福永愛 ロンドン大学東洋アフリカ学院]

推奨

1 *kogei*, *kōgei*

日本の工芸は、つくられる背景など「クラフト」とは大きく異なる
その特殊性こそ、伝えたい。「工芸」が世界に通じる言葉になってほしい
ただし日本語であることを伝えるために、イタリックにする。マクロンは必須ではない

2 *craft*

相手に伝わるのが、重要。英語圏の人たちの生活のなかで既に存在するもの、もしくはそれに近いものに置き換えるのが、英訳であると考え

3 *kogei* (Japanese craft) / Japanese *craft* (*kogei*)

1と2の思いを合わせたもの
日本にしかない特殊な形状や技法についても、同様に日本語の斜体と括弧に入れた英語の説明とを組み合わせて伝えるのがよいのではないか

COLUMN 4

“craft” の意味 2018

craft は、英語圏において近年変わりつつある。

“craftsman” と “artisan”、 “artist”

英語圏の工芸のつくり手に “craftsman” という言葉を用いたら怒らせてしまった。“artist” と呼ぶべきだったようだ。また、日本で開催したイベントである国の工芸家集団を招へいた際にも、似たようなエピソードがあったようだ。「自分たちはアーティストなのに、なぜ craftsman と同じホテルに泊まられるんだ?ホテルを変えてほしい」といわれたことも。craftsman を階級として下に見ている人たちも存在する。

[外務省勤務]

可能性を内包した、これから価値づけする言葉 —— ロンドン

イギリスで、craft という言葉に価値づけをしようという試みが起こっている。その言葉の中にある曖昧さのようなものに、逆に可能性を感じている。今の時代に、人々がどんな価値を craft に見出していくのか実感できる。

[Guy Salter ロンドンクラフトウィーク チェアマン]

21世紀鷹峯フォーラム第3回 in 石川・金沢 シンポジウム「世界の工芸事情を知ろう!グローバルゼーションと工芸」2017年10月20日～22日より

ブランディングによる新たな価値の発信 —— スコットランド

craft のはっきりした定義づけは、イギリス国内でもされていない。エディンバラのクラフト・ビエンナーレでは、広いイメージで美術的な要素を打ち立てて、craft という言葉を変えずにそのままブランディングしていくことを目指している。言葉の定義が揺らいでいる今だからこそ、つくり手、キュレーターなど工芸に携わる人たちがその価値を見出し、発信することを通して、積極的に定義づけを行っていくべき。craft の未来があると明言できる状況を、自らつくるのが大切。

[Tina Rose スコットランド・クラフト・ビエンナーレ2018ディレクター、リアリイインタレストイングオブジェクトCICディレクター]

21世紀鷹峯フォーラム第3回 in 石川・金沢 シンポジウム「世界の工芸事情を知ろう!グローバルゼーションと工芸」2017年10月20日～22日より

趣味的イメージという枠組み —— ニューヨーク

craftという言葉に趣味的なイメージがついてしまっているため、2002年に名称を変更する際、American Craft Museum から craft をはずして、Museum of Arts and Design とした。結果的に分野横断型の性格を的確に示せるようになり、craft という言葉を用いることで限定されてしまっていた作品の捉え方や客層に、よい変化をもたらされた。枠組みよりも、素材やプロセスなど、作家ごとの取り組みに着目する傾向が強まっていると思う。

[Ronald T. Labaco インデペンデントキュレーター、元Museum of Arts and Design, NYキュレーター]

21世紀鷹峯フォーラム第3回in石川・金沢 シンポジウム「世界の工芸事情を知ろう!グローバルゼーションと工芸」2017年10月20日~22日より

7

これは伝わらない／これなら伝わる 工芸用語の英訳例

× は伝わらない、○ は伝わる、○× は英語を母語にしている方の中でも意見が分かれたもの

つくり手			
絵付け師[えつけし]／ 絵付け職人 [えつけしよくにん]	painting craftsman	×	正確な訳ではない
	ceramic painter	○	
	ceramic decorator	○	
鋳師[かざりし]	precious metal smith	×	説明不足で伝わらない
	<i>kazari-shi</i> (specialist in precious-metal decoration)	○	
木地師[きじし]	basemaker	×	違うものを指してしまう
	woodcarver	○	
	wood carver	○	
工芸家[こうげいか]	artisan	○×	
	craftsman	○×	
	craftier	○×	
	craftsperson	○×	
	craftspeople	○×	
漆芸家[しつげいか]	Japanese lacquer artist	×	Japaneseは必要ない
	lacquer artist	○	
沈金師[ちんきんし]	chinkin artisan	×	chinkinの説明がされていない
	<i>chinkin-shi</i> (specialist in engraved lacquer and gold-leaf decoration)	○	
	gold-inlaid lacquerware artisan	○	
陶芸家[とうげいか]	pottery maker	×	
	potter	○×	独特なニュアンスのある言葉なので避けたほうが無難
	ceramist	○	
	ceramicist	○	
	ceramic artist	○	
塗師[ぬし]	nushi	×	日本語だけでは伝わらない
	lacquer nurishi	×	未訳の日本語がある
	lacquer painter	×	「漆で絵を描く人」というイメージ
	lacquerer	○	
蒔絵師[まきえし]	<i>maki-e-shi</i>	×	日本語だけでは伝わらない
	maki-e craftsman	×	適切な訳語ではない
	maki-e artisan	×	maki-eが日本語だとわかるようにイタリック体にする
	<i>maki-e artisan/maki-e artisan</i>	○	いずれも可だが一般向けには蒔絵の説明があったほうがベター。 正しく発音されるようmaki-eとハイフンで区切ったほうがいいという意見もある
	<i>maki-e artist/maki-e artist</i>	○	
蠟色師[ろいろし]	roiroshi who are dedicated solely to 'roiro' (polish)	×	正確な説明ではない
	roiro artisans	×	蠟色の説明が必要
	<i>roiro-shi</i> (specialist in polished black-lacquer finish)	○	
轆轤師[ろくろし]	lathe operator	×	自動車工場の技師のような印象
	turner	○	
産地			
九谷[くたに]	Ishikawa Prefecture (formerly Kaga Province), Kutani ware, Yoshidaya kiln	○	
	Ishikawa Prefecture, Kaga City, Kutani ware, Yoshidaya kiln	○	

肥前・有田[ひぜん・ありた]	Arita kiln, Hizen	○×	
	Arita kiln, Hizen province	○×	地名につくProvince は大文字で始める
	Arita kiln, Imari ware, Hizen	○×	
	Arita ware, Hizen (Saga pref.)	○×	pref.のように省略形にしない
	Hizen, Arita ware (Nangawarayama kilns)	○×	
	Arita, Hizen (Saga Pref.)	○×	
	Tenjinmori Kiln, Arita, Hizen (Saga Pref.)	○×	pref.のように省略形にしない
	Karatsu ware, Hizen	○×	
	Ogawachi kiln, Hizen	○×	
	Ogawachi Nipposha-shita kiln, Hizen	○×	
	Nabeshima official kiln, Okawachi Nabeshima ware, Hizen	○×	
	Mikawachi kiln, Hirado ware, Hizen	○×	
	Iwayagawachi kiln, Arita, Nabeshima ware, Hizen	○×	
	Iwayagawachi kiln, Hizen	○×	
	Hizen Province, Arita Town, Nabeshima, Iwayagawachi kiln	○	
種類・技法・釉薬			
青釉[あおゆう]	blue glaze	○	
	blue-glazed + 名詞		“-glazed” とハイフンでつなぐのが正しい。かつ形容詞なので後ろに名詞をつける
赤絵[あかえ]	akae (kinrante)	×	読み間違いを避けるため、“aka-e”のようにハイフンを入れる。また“kinrante”はスペルミス。正しくは“kinrande”
	akae (red-enameled)	×	aka-eのようにハイフンが必要
	akae (red painting)	×	
	overglaze enamel decoration primarily in red color	×	正確な説明ではない
	aka-e style	×	未訳の日本語がある
	overglaze enamel	○	赤絵は広く色絵を指す言葉なので“overglaze enamel”で統一してもよい。ただし赤絵の具のみの装飾であれば“red”を入れても可
	overglaze red enamel	○	
	overglaze red enamel decoration	○	
	ceramics with polychrome overglaze enamels	○	
polychrome overglaze enamel			
赤楽[あからく]	raku ware	×	“Raku”は固有名詞なので語頭は必ず大文字
	aka (red) raku type	×	
	red Raku	○	
	aka (red) Raku type	○	
	red Raku ware	○	
飴釉[あめゆう]	stoneware with caramel glaze	×	“caramel”は飴の直訳で伝わりづらい
	amber glaze	○	
	brown glaze	○	
	ochre-glazed	○	
伊賀	Iga ware	○	
イッチン[いっちゃん]	slip trailing decoration	×	英語として不自然
	slip-trailed decoration	○	
色絵[いろえ]	iroe	×	“Iro-e”のようにハイフンを入れないと正しく発音されない
	iroe (gosaite)	×	
	overglazes	×	“overglaze”は基本的に形容詞なので複数形にしない
	in overglaze Enamels	×	小文字と大文字を組み合わせるのは間違い
	overglaze enamel (painting)	×	“painting”を括弧に入れる必要はない
in underglaze blue and overglaze Enamels	×	enamelのみ大文字にしない	

	overglaze enamel (s)	○	
	overglaze polychrome enamel (s)	○	
	polychrome glaze	○	
	polychrome overglaze painting	○	
色絵金彩[いろえきんさい]	overglazes and gold	×	“overglaze” は形容詞なので複数形は不可
	overglaze enamel (s) and gold	○	
	Polychrome and Gold	○	
	overglaze polychrome enamel (s) and gold	○	
上絵[うわえ]	overglaze enamel (painting)	×	括弧は不要
	overglaze enamel (s)	○	
上絵付け[うわえつけ]	overglaze painting	○	
織部[おりべ]	oribe	×	“Oribe” は固有名詞なので大文字で始める。イタリック体にはしない
	<i>Oribe</i> type	×	
	'Oribe' style	×	クォーテーションマークの中でイタリック体にするのは間違い
	stoneware with green glaze and Iron-Painted	×	文法的に間違い。また大文字と小文字が混在している
	Oribe type	○	
	Oribe ware	○	
	Oribe-type Mino ware	○	
	Mino ware, Oribe type	○	
	Mino ware, Oribe style	○	織部は様式名なので、「織部」という言葉を紹介しつつ、様式ということをわかるようにする
	iron-painted stoneware with green glaze	○	緑色の釉薬を「織部」と呼ぶ場合は可
灰釉[かいゆう]	ash glazed	×	“ash-glazed” とハイフンでつなぐのが正しい。かつ形容詞なので後ろに名詞をつける
	ash-glazed stoneware	○	
	ash glaze	○	
	stoneware with ash glaze	○	
掻き落とし[かきおとし]	sgraffito/scraped-off decoration	×	正確な説明ではない
	sgraffito	○	
柿釉[かきゆう]	reddish brown glaze	×	ハイフンが必要
	reddish-brown glaze	○	
	persimmon glaze	○	
褐釉[かつゆう]	brown glazed	×	“-glazed” とハイフンでつなぐのが正しい。かつ形容詞なので後ろに名詞をつける
	brown-glazed + 名詞	○	
	brown glaze	○	
黄瀬戸[きせと]	yellow-seto type	×	seto は固有名詞なので語頭は大文字にする
	yellow-seto ware	×	
	ki (yellow) seto type	×	
	(yellow Seto) Kisetō	×	ki-Setoとハイフンを入れる
	'ki-Seto' style	×	クォーテーションマークの中はイタリック体にはしない
	ki-Seto type	×	未訳の日本語がある
	yellow Seto type	○	
	yellow-Seto ware	○	
	ki-Seto (yellow-Seto) style	○	
	ki-Seto (yellow-Seto) type	○	
金銀彩[きんぎんさい]	overglaze gold and silver	○	
	overglaze enamels, gold and silver	○	
金彩[きんさい]	overglazes and gold	×	“overglaze” は形容詞なので複数形は不可
	overglaze gold	○	
	overglaze enamel and gold	○	

	gold	○	
	gold decoration	○	
	gilding	○	
銀彩[ぎんさい]	silver painting	○	
	overglaze silver	○	
金欄手[きんらんて]	gold leaves	×	複数形にしない
	gilt (Kinran-de)	×	適切な訳語ではない
	overglaze enamel and gold	○	
	overglaze enamel and gold decoration	○	
	overglaze enamel and gold decoration type known as <i>Kinran-de</i>	○	
	overglaze polychrome enamel and <i>kinrande</i> gold	○	
	<i>kinrande</i> -style ware	○	
	porcelain painted with red and gold over a transparent glaze	○	
	enameled and gilded ware	○	
	~in underglaze blue and overglaze enamel	○	
黒釉[くろゆう]	black glaze	○	
	black-glazed + 名詞	○	“-glazed” とハイフンでつなぐのが正しい。かつ形容詞なので後ろに名詞をつける
黒楽[くろらく]	kuro (black) raku ware	×	Raku は固有名詞なので語頭は必ず大文字、またイタリック体にしない
	kuro (black) raku type	×	
	black Raku	○×	
	black Raku ware	○	
	black Raku type	○	
	black Raku style	○	
	<i>kuro</i> (black) Raku ware	○	
	black (<i>kuro</i>) Raku	○	
黒陶[くことう]	black pottery	○	
粉引[こひき]	<i>kohiki</i> type	×	<i>kohiki</i> の説明が必要
	white slip glaze	○	
錆絵[さびえ] / 鉄絵[てつえ]	rusty colors urushi lacquer decoration	×	意味が伝わらない
	underglaze oxide	×	何の酸化物か明記するべき
	underglaze iron (painting)	×	括弧は不要
	<i>sabi-e</i>	×	日本語だけでは伝わらない
	underglaze iron	○	
	underglaze iron black	○	
	underglaze iron painting	○	
	underglaze brown	○	
	iron underglaze	○	
	iron painting	○	
	iron oxide underglaze	○	
	underglaze iron oxide	○	
	painted in iron brown	○	
	<i>tetsu-e</i> (designs drawn with a pigment rich in iron)	○	
錆釉[さびゆう]	iron glaze	○	
	iron-oxide glaze	○	
	black and brown iron-oxide glaze	○	
三彩[さんさい]	tricolor glaze	×	“tricolor” はフランスなどの三色旗を連想させるので避けたほうがよい
	three-color glaze	○	
	three-color (<i>sancai</i>) glaze	○	

	three-color-glazed + 名詞	○	“-glazed” とハイフンでつなぐのが正しい。かつ形容詞なので後ろに名詞をつける
	three-colored pottery	○	
	sancai	○	
塩釉 [しおぐすり]	salt glaze	○	
	stoneware with salt glaze	○	
信楽 [しがらき]	Shigaraki ware	○	
自然釉 [しぜんゆう]	unglazed	×	「無釉」を意味するため
	natural ash glaze	○	
	stoneware with natural ash glaze	○	
下絵 [したえ]	underglaze pigment	○	
下絵付け [したえつけ]	underglaze painting	○	
	underglaze decoration	○	
志野 [しの]	‘Shino’ style	×	クォーテーションマークの中はイタリック体にしない
	Shino-style	○	
	Shino style	○	
	Shino ware	○	
	Shino type	○	
	Shino-type Mino ware	○	
	Shino	○	
鑱 [しのぎ]	ridge line on the blade	○	
	sword-blade ridge	○	
白化粧 [しろけしょう]	engobe	×	専門家でなければ知らない単語
	white slip decoration	○	
	white liquid clay decoration	○	
青磁 [せいじ]	celadon	○	
	celadon glaze	○	
	celadon glaze (<i>seiji</i>)	○	
	celadon-glazed + 名詞	○	“-glazed” とハイフンでつなぐのが正しい。かつ形容詞なので後ろに名詞をつける
	light bluish-green glaze	○	
青白磁 [せいはいくじ]	blue-tinted <i>seihakuji</i> (blue-white porcelain)	×	“blue-white” は文法的に間違い
	bluish white porcelain	×	“bluish-white” のようにハイフンを入れる
	bluish-white porcelain	○	
	pale blue glaze	○	
	white porcelain with pale blue glaze	○	
	qingbai (clear blue)	○	
瀬戸黒 [せとくろ]	black-seto type	×	Seto は固有名詞なので語頭は大文字に
	black-seto ware	×	
	black seto	×	
	“Setoguro” type	×	クォーテーションマークとイタリック体は一緒に使わない
	Setoguro type	×	未訳の日本語がある
	Seto black	×	日本語の語順のままだが英語として不自然
	Seto-black ware	×	
	black-Seto type	○	
	<i>Setoguro</i> (black-Seto) type	○	
象嵌 [ぞうがん]	zogan	×	日本語を何の説明もなく載せるのは一般人向けとしては望ましくない
	metal inlay	×	適切な訳語ではない
	inlay	○	
	shell inlay	○	
染付 [そめつけ]	sometsuke-yaki (stained pottery)	×	stain は染めの直訳で伝わりづらい

	blue and white porcelain	×	blue-and-white porcelainとするべき
	blue and white-glazed porcelain (sometuke)	×	blue-and white-glazed porcelainもしくは blue-and-white-glazed porcelainとするべき
	underglaze blue (painting)	×	括弧は不要
	under-glazed blue pattern called "sometuke"	×	日本語をクォーテーションの中に入れるのは望ましくない。かつ日本語はイタリック体にするべき。また絵が釉薬 (glaze) の下にあることを "under-glazed" とは言わない。
	sometuke	×	日本語だけでは伝わらない
	sometuke (underglaze blue)	○	
	sometuke or underglaze cobalt-blue wares	○	
	blue and white	○	
	blue-and-white	○	
	blue-and-white porcelain	○	
	underglaze blue	○	
	underglaze blue (sometuke)	○	
	underglaze cobalt blue	○	
	underglaze blue design	○	
	underglaze blue decoration	○	
鉄釉【てつゆう】	iron brown glaze	×	"iron" の後ろにハイフンがあれば可
	iron black glaze	×	
	iron glaze	○	
	stoneware with iron-brown glaze	○	
	stoneware with iron glaze	○	
天目【てんもく】	tenmoku	×	日本語だけでは伝わらない
	tenmoku type	○×	様式だということがわかるのでよい
	tenmoku glaze	○×	
	tenmoku ware	○×	
布目【ぬのめ】	fabric texture style	×	適切な訳語ではない
	cloth inlay	○	
流し掛け【ながしがけ】	streaked glazes	○	
布目象嵌【ぬのめぞうがん】	damascening	○	ただし一般的な訳語ではないので補足説明が必要
練上【ねりあげ】	neriage	×	日本語だけでなく説明が必要
	marbled	○	
	marbled ware	○	
	marbleized ware	○	
	marbleized stoneware (neriage)	○	
	neriage (a technique that consists in kneading together different colors of clay)	○	
練込【ねりこみ】	marbled	○	
灰被り【はいかぶり】	natural ash glaze	○	
白磁【はくじ】	white porcelain	○	
	white glaze	×	白磁は白色の釉ではなく、透明な釉を施した磁器
	porcelain	○	
刷毛目【はけめ】	Hakeme type	×	
	brush mark varnish	×	
	hakeme (brush marks)	○	
	hakeme brush marks	○	
	brush marks	○	
	brushed slip design	○	
緋襷【ひだす】	fire cord markings	×	ハイフンを入れなくてはならない
	fire-cord markings	○	
	fire marks	○	
	flame marks	○	

	fire-mark decoration	○	
	<i>hidasuki</i> (markings left by cords that burned off during the firing)	○	
ベンガラ	bengalen	×	“bengalen”は“bengara”もしくは“benigara”のミススペル?
	indian red	×	適切な訳語ではない
	red oxide of iron	×	英語として不自然
	iron oxide	○	
	red iron oxide	○	
焼締【やきしめ】	Yakishime Yaki	×	意味の重複になる
	high-fired clay	×	適切な訳語ではない
	stoneware	×	これだけでは説明不十分
	<i>yakishime</i>	○	
	<i>yakishime</i> (unglazed stoneware)	○	
	<i>yakishime</i> or unglazed	○	
	unglazed stoneware	○	
	<i>yakishime</i> (high-fired, unglazed) pottery	○	
	<i>yakishime</i> (high-fired unglazed stoneware)	○	
	<i>yakishime</i> ware (high-fired, unglazed stoneware)	○	
	high-firing without glaze	○	
釉下彩【ゆうかさい】	underglaze enamel	○	
	underglaze cobalt-blue and gray	○	
	underglaze painting	○	
	underglaze	○	
釉裏金彩【ゆうりきんさい】	underglaze gold	○	
	yellow-green glaze and gold enamel		
窯変磁【ようへんじ】	Yohen effect	×	未訳の日本語がある
	kiln mutation effect	×	
	porcelain with kiln effects	○	
窯変(焼締) 【ようへん(やきしめ)】	scorched surface coloring	○	
楽焼【らくやき】	raku yaki	×	“Raku”は固有名詞なので語頭は必ず大文字
	Raku Firing	×	英語として不自然
	Rakuyaki	×	日本語だけでは伝わらない
	Raku	○	
	Raku-ware	○	
	Raku ware	○	
	Raku ceramics	○	
	Raku pottery	○	
緑釉【りよくゆう】	green glaze	○	
	green-glazed + 名詞	○	“-glazed”とハイフンでつなぐのが正しい。かつ形容詞なので後ろに名詞をつける
	stoneware with green glaze	○	
つくり手、グループ			
柿右衛門【かきえもん】	Arita, Kakiemon Style	×	Aritaだけで使うのは適切ではない
	porcelain, Kakiemon style ware	×	
	Kakiemon Style, Arita/Hizen Ware	○×	語順が逆。Hizen Ware, Kakiemon StyleもしくはArita Ware, Kakiemon Styleなら可。有田・肥前の使い分けは展示内容による
	Kakiemon kiln	○	柿右衛門窯からの出土品であれば kiln を使うことができる
	Kakiemon-style	○	様式としての柿右衛門であればKakiemon style がふさわしい
	Hizen ware, Arita Kakiemon type	○	
	Arita/Hizen ware, Kakiemon style	○	有田、肥前の使い分けは展示内容による

	Imari Ware, Kakiemon Type	○	
	Kakiemon type	○	
	Kakiemon porcelain	○	
長次郎[ちょうじろう]	Chōjirō	×	“ō”は英語の出版物ではもう使われていない。 “o”を使うほうが望ましい
	Chojiro	○	
	Chōjirō	○	
鍋島[なべしま]	Okawachi kiln, Hizen	○×	語順が違う。Hizen Province, Okawachi kiln なら可
	Nabeshima kiln	○×	鍋島焼という狭義のやきものを指す用語なのか、 鍋島という様式全般を指すのかで使い分けが必要。 鍋島藩窯は数か所あるので、窯出土品に用いる 場合は Okawachi kiln が適当
	Nabeshima ware	○	
	Hizen Province, Okawachi kiln	○	
民芸[みんげい]	mingei (folk ware)	×	“folk”という訳語は庶民というイメージがあるので 避ける
	folk art	×	
	mingei (people's crafts)	○	
漆芸の基本用語 種類			
乾漆[かんしつ]	kanshitsu lacquer	×	未訳の日本語がある
	kanshitsu (dried lacquerware)	×	適切な訳語ではない
	kanshitsu	×	日本語だけでは伝わらない
	kanshitsu (dried lacquer)	○×	
	dry lacquer	○	
	'dry-lacquer' technique (kanshitsu)	○	
	dry lacquer technique	○	
	kanshitsu or dried lacquer	○	
	kanshitsu (method of fashioning an object by applying many layers of hemp soaked with urushi over a core)	○	
	kanshitsu (method of applying layers of hemp cloth between lacquer)	○	
	lacquer using kanshitsu technique	○	kanshitsuの説明が必要
金胎[きんたい]	box of metal body	×	適切な訳語ではない
	metal base	○	
	body made of metal	○	
紙胎[したい]	paper body	○	
	shitai (body made of paper)	○	
堆朱[ついしゅ]	lacquer carving	×	「朱」の部分が伝わらない
	red lacquer carving	○	
	carved cinnabar lacquer	○	
	cinnabar lacquer carving	○	
	~wood, red-lacquered ware	○	
籃胎[らんたい]	rantai work	×	未訳の日本語がある
	rantai	×	日本語だけでは伝わらない
	bamboo work	×	説明不足
	bamboo-based lacquer ware	×	適切な訳語ではない
	lacquer ware with woven bamboo body	○	
	lacquered woven bamboo	○	
	rantai (woven bamboo base)	○	
	rantai (woven bamboo body)	○	
漆芸の基本用語 技法・仕上げ			
色漆[いろうるし]	iro (colored)-urushi	×	訳語のなかに未訳の日本語、ハイフンの使い方が 不適切
	colored urushi painting	×	未訳の日本語がある

	colored lacquer	○	
漆絵[うるしえ]	<i>urushi-e</i>	×	日本語だけでは伝わらない
	lacquer painting (<i>urushi-ga</i>)	×	“urushi-ga”ではなく“urushi-e”
	lacquer painting	○	
鎌倉彫[かまくらぼり]	Kamakura-bori	×	日本語だけでは伝わらない
	Kamakura carving	×	説明不足
	wood carving coated with lacquer	○	
	Kamakurabori (lacquered carved wood)	○	
木地蒔絵[きじまきえ]	<i>maki-e</i> lacquer on plain wood surface	○	
蒔醬[きんま]	kinma: (蒔醬)	×	日本語だけでは伝わらない
	kinma lacquer	×	未訳の日本語がある
	kinma lacquerware	×	未訳の日本語がある
	kinma (color lacquer inlay) , lacquerware	×	英語として不自然
	<i>kinma</i> (<i>urushi</i> ware decoration with engraving filled with colored <i>urushi</i>)	×	未訳の日本語がある
	incised and color-filled lacquer	○	
	<i>kinma</i> (colored-lacquer inlay)	○	
	bamboo basket core, <i>kinma</i> type lacquered ware	○	kinmaの説明が必要
	~ <i>kinma</i> type lacquered ware	○	
	~wood, black lacquered ware	○	
	<i>kinma</i> (incised and color-filled) lacquer decoration	○	
	<i>kinma</i> (engraved design filled with colored lacquer)	○	
	朱漆[しゅうし]	red <i>tamenuri</i> (raw <i>urushi</i> painting over coat of colored <i>urushi</i>)	×
lacquered wood		○	
vermillion lacquer (ed)		○	
red-coloured lacquer		○	
red-lacquered		○	
wood, red lacquered ware		○	
赤漆[せきしつ]	red-lacquered	○	
溜め塗り[た(め)ぬ(り)]	<i>tamenuri</i> (raw <i>urushi</i> painting over coat of colored <i>urushi</i>)	×	訳語のなかに未訳の日本語
	technique consisting in covering a layer of coloured lacquer with a coating of clear lacquer	○	
	<i>Tamenuri</i> lacquering technique; colored undercoating with transparent topcoat	○	
	black translucent lacquer (<i>tamenuri</i>) on wood	○	
彫漆[ちょうしつ]	choshitsu: (彫漆)	×	日本語だけでは伝わらない
	choshitsu	×	
	choshitsu (layered lacquer carving) , lacquerware	×	“layered” というのは強調するほどの点ではない
	<i>urushi</i> carving	×	未訳の日本語がある
	engraved design	×	説明不足
	lacquer carving	○	
	carved lacquer	○	
	carved lacquer (<i>choshitsu</i>)	○	
	<i>choshitsu</i> (lacquer carving)	○	
	colored lacquer carving	○	
沈金[ちんぎん]	chinkin	×	日本語だけでは伝わらない
	chinkin lacquer	×	未訳の日本語がある
	chinkin (application of gold to achieve a contrast effect with the lacquer)	×	説明不足
	chinkin (<i>urushi</i> ware decoration with line engraving filled with gold leaf)	×	正確な説明ではない
	gold engraving (chinkinbori)	×	正確な説明ではない
	sunken gold (chinkin) technique	×	直訳で意味が伝わらない
	sunken gold	×	

	incised gold foil	×	彫られる (incised) のは金箔ではなく漆なので間違い
	gold-inlay lacquerware	○	
	incised and gold-filled lacquer	○	
	gilded line engraving	○	
	<i>chinkin</i> (gilded line engraving)	○	
	<i>chinkin</i> (gilded hair-line engraving)	○	
	lacquer on wood with gold inlay (<i>chinkin</i>)	○	
	polychrome <i>chinkin</i> (incised and gold-filled) lacquer decoration	○	
手板 [ていた]	sample panel	○	
研出蒔絵 [とぎだしまきえ]	lacquer technique with polished sprinkled design	×	説明不足
	togidashi taka maki-e	×	日本語だけでは伝わらない
	<i>maki-e</i> technique with polished sprinkled circle gold powder design	○	
布目塗り [ぬのめぬり]	nunome-nuri (cloth structure)	×	適切な訳語ではない
	cloth-pattern coating	○	
根来塗り [ねごろぬり]	Negoro ware	×	説明不足
	negoro-type-lacquering work	×	Negoroは固有名詞なので大文字にする
	red-lacquered ware with a black-lacquer undercoat	○	
	Negoro lacquerware	○	
	~wood, lacquered ware, Negoro type	○	
	Negoro lacquer~	○	
	Negoro red-and black-lacquer~	○	
平文 [ひょうもん]	metal sheet cutout embedding	×	英語の語順として不自然
	hyomon	×	日本語だけでは伝わらない
	hiramon	×	
	hyomon (embedding of metal sheet cutouts)	×	embedding より embedded か inlaid のほうがベター
	“hyōmon” (embedded metal sheet)	×	日本語をクォーテーションマークの中にいれない
	hyomon (surface metal decoration)	×	正確な説明ではない
	imbedding of sheet-metal cutout	×	imbedではなく embed のほうが適切
	<i>hyōmon</i> (inlaid sheet-metal decoration)	○	
拭漆 [ふきうるし]	varnished	×	説明不足
	clear lacquered	×	説明不足
	lacquer that has been partially wiped away immediately after application	○	
	<i>fuki-urushi</i> (wiped lacquer)	○	
	<i>fuki-urushi</i> (wiped raw lacquer)	○	
	with wiped-lacquer finish	○	
蒔絵 [まきえ]	makie	×	“maki-e” とハイフンをつけないと正しく発音されない
	<i>maki-e</i> (sprinkled gold) , lacquerware	×	カンマは不要
	lacquer and maki-e (sprinkled gold and silver)	×	正確な説明ではない
	<i>maki-e</i> (urushi ware decoration method of drawing a design with liquid urushi, over which meal filings are sprinkled while the urushi is still moist)	×	未訳の日本語がある
	<i>maki-e</i> decoration, mother-of-pearl	×	正確な説明ではない
	metal powder sprinkled lacquer decoration	×	英語として不自然
	<i>maki-e</i>	○	
	<i>maki-e</i> lacquer	○	
	<i>maki-e</i> lacquerwork	○	
	<i>maki-e</i> lacquered wood	○	
	<i>maki-e</i> lacquer decoration	○	

	<i>maki-e</i> lacquer: lacquer ware decoration technique in which design is drawn in lacquer, over which gold, silver or other metal powder is sprinkled while the lacquer is wet.	○	
	lacquer with metallic powder	○	
	powdered gold (<i>maki-e</i>) on black lacquer	○	
	black lacquer with sprinkled gold, metal fittings	○	
	black lacquer on wood with <i>maki-e</i> technique	○	
	lacquer with sprinkled gold (<i>maki-e</i>)	○	
	<i>maki-e</i> (sprinkled picture)	○	
曲輪[まげわ]	~, woven bamboo base (<i>rantai</i>) with hoop-built (<i>magewa</i>) technique	○	
螺鈿[らでん]	raden	×	日本語だけでは伝わらない
	mother of pearl	×	ハイフンが必要
	shell inlay (raden)	×	適切な訳語ではない
	<i>raden</i> (mother-of-pearl) inlay	○	
	mother-of-pearl	○	
	mother-of-pearl inlay	○	
	inlaid mother-of-pearl	○	
	lacquered and inlaid ~ with mother-of-pearl decoration	○	
卵殻[らんかく]	rankaku	×	日本語だけでは伝わらない
	eggshell decoration	○	
形の基本用語			
脚付杯[あしつきはい]	goblet with stem	○	
	stemmed goblet	○	
印籠[いんろう]	inro	×	日本語だけでは伝わらない
	inro case	×	訳語の中に未訳の日本語がある
	inro/case	×	訳語の中に未訳の日本語がある
	case (Inro)	×	説明不足で伝わらない
	<i>inrō</i> (medicine container)	○	
	<i>inrō</i> (set of interlocking cases for medicine)	○	
団扇型皿[うちわがたざら]	dish in the shape of round fan	○	
扇形皿[おおぎがたざら]	fan-shaped dish	○	
大皿[おおざら]	large dish	○	
	dish	○	
	large plate	○	
	plate	○	
	large stoneware platter	○	
	charger	○	
	serving platter	○	
大壺[おおつぼ]	jar	○	
	large jar	○	
	large storage jar (<i>otsubo</i>)	○	
	vase	○	
	large vase	○	
大鉢[おおばち]	bowl	○	口径一尺を超えるあたりから大鉢と呼ぶ
	large bowl	○	
大瓶[おおびん]	vase	×	説明不足。「大」の部分ちゃんと翻訳で伝える必要がある
	large vase	○	
鬼桶[おにおけ]	<i>oni-oke</i> type	○	
鏡箱[かがみばこ]	mirror case	○	
	mirror case (<i>kagami-bako</i>)	○	

花器 [かき]	vase	×	「花器」のほうが「花瓶」より花専用という印象があるため、“flower”を用いたほうがよい
	vessel	×	
	flower vase	○	
	flower vessel	○	
	flower container	○	
額 [がく]	panel	○	
	framed panel	○	
額鉢 [がくばち]	square-shaped dish	○	
角皿 [かくざら]	square dish	○	
	square plate	○	
角盆 [かくぼん]	tray	○	
飾皿 [かざりざら]	decorative plates	○	
飾棚 [かざりだな]	decorative plates	○	
飾壺 [かざりつぼ]	ornamental jar	○	
飾箱 / 飾笥 [かざりばこ]	box	○	
	ornamental box	○	
飾り鉢 [かざりばち]	centerpiece bowl	○	
菓子器 [かしき]	kashiki sweets container	×	日本語と英語をただ併記するのは望ましくない
	snack container	×	snackやcakeでは菓子のイメージが伝わらない
	cake vessel	×	
	cake bowl	×	
	confectionery box	×	
	container	×	説明不足で伝わらない
	tray for sweets	○	
	<i>kashiki</i> (confectionery tray)	○	
dish for sweets (<i>kashiki</i>)	○		
片口 [かたくち]	katakuchi	×	日本語だけでは伝わらない
	katakuchi sake pourer	×	訳語の中に未訳の日本語がある
	one-spouted	×	英語として不自然
	~ with a beaked rim	×	英語として不自然
	bowl with spout	○	
	spouted bowl	○	
	spouted bowl for serving sake (<i>katakuchi</i>)	○	
	<i>katakuchi</i> (spouted bowl for serving sake)	○	
花瓶 [かびん]	bottle	×	適切な訳語ではない
	vase	○	
	flower vase	○	
甕 [かめ]	jar	×	甕はjarより大きいイメージ
	large jar	○	
唐櫃 [からびつ]	chest with legs	○	
菊花形鉢 [きっかがたばち]	bowl in the shape of a chrysanthemum	○	
急須 [きゅうす]	pot	×	甕や鉢をイメージさせる
	tea pot	×	teapot は一語
	teapot	○	
建水 [けんすい]	water waste receptacle (<i>kensui</i>)	×	英語として不自然
	waste-water receptacle (<i>kensui</i>)	○	
汲出 [くみだし]	cup	○	
沓形鉢 [くつがたばち]	tea bowl, shoe shape	○	
香合 [こうごう]	incense box (kogo)	×	
	incense box	○	
	incense container	○	

	incense case	○	
	<i>kogo</i> (incense container)	○	
合子／盒子【ごうす】	case with lid	×	
	jar with stopper	×	適切な訳語ではない
	covered vessel	○	
	covered box	○	
	circular covered box	○	
	lidded box	○	
香箱【こうばこ】	box for incense	○	
	incense box	○	
香盆【こうぼん】	incense tray	○	
	<i>kobon</i> (tray for incense)	○	
香炉【こうろ】	incense burner	○	
小箆箱【こだんす】	small cabinet	○	
	small chest	○	
	miniature chest	○	
	<i>kodansu</i> (cabinet)	○	
小箱【こばこ】	box	○	
	small box	○	
	covered box	○	
盃【さかづき】	cup	×	説明不足で伝わらない
	sake cup	○	
桜文飾箱 【さくらもんかざりばこ】	ornamental box with cherry blossoms design	○	
提重【さげじゅう】	picnic box	○	
	tiered picnic box	○	
	tiered food box with handled tray	○	
皿【さら】	plate	○	“plate”、“dish”、“saucer”すべて、小さいものを使う
	stoneware plate	○	
	dish	○	
	saucer	○	
三角形花瓶 【さんかくがたかびん】	flower vase, triangle shape	○	
四角形花瓶【四角形花瓶】	rectangular vase	○	
食籠／喰籠【じきろう】	food box	○	
	covered food box	○	
	food container	○	
	lidded food container	○	
獅子形香炉 【ししがたこうろ】	incense burner in the shape of a lion-dog	○	
四耳壺【しじこ】	jar with four handles	○	
	tea jar with loop handles	○	
四方盆【しほうぼん】	square-shaped tray	○	
重箱【じゅうばこ】	jubako	×	日本語だけでは伝わらない
	set of layered boxes	×	箱のひとつひとつが層になっているという意味になる
	tiered food box	○	
	stacked food box (<i>jubako</i>)	○	
	tiered food container	○	
	four-tier stacking food container (<i>jubako</i>)	○	
	set of stacked boxes (<i>jubako</i>)	○	
酒注【しゅちゅう】	wine bottle with rock	×	意味が伝わらない
	sake ewer	○	
酒杯揃い【しゅはいぞろい】	set of cups for sake	○	

書棚[しょだな]	bookcase	○	
四稜壺[しりょうこ]	jar with four-ridged spiral design	○	
沈箱[じんぼこ]	box for incense	○	
	incense box	○	
水注[すいちゅう]	pot	×	違うものを指してしまう
	water pot	×	
	freshwater container	×	適切な訳語ではない
	jug	○	
	ewer	○	
	water pitcher	○	
水滴[すいてき]	water dropper	○	
	water-dropper	○	
厨子[ずし]	portable shrine	○	
硯箱[すずりぼこ]	inkstand box	×	硯箱にinkstone しか入っていないようなイメージ
	inkstone box	×	
	box for inkstone	×	
	writing box (inkstone box)	×	
	inkstone case	×	case だと硯箱のイメージではない
	writing case (suzuribako)	×	
	writing box	○	
	writing box (suzuribako)	○	
	suzuribako (box for writing utensils)	○	
	box for writing equipment	○	
suzuribako (box for writing utensils) and cover			
洲浜形皿[すはまがたざら]	dish in triangle shape	○	
	triangular dish	○	
隅入／隅切盆 [すみいり／すみきりぼん]	tray with angled corners	○	
膳[ぜん]	footed tray	○	
台付杯／台付鉢 [だいつきまい／だいつきばち]	pedestalled bowl	×	
	footed bowl	○	
高坏[たかつき]	footed tray	○	
	stemmed tray	○	
	stem table (takatsuki)	○	
棚[たな]	decorative shelf	×	装飾的な棚に限定されてしまう
	cabinet	×	戸の付いた書類整理棚、若しくは小部屋を指す言葉
	shelf	○	一段だけの棚
	set of shelves	○	飾り棚や違い棚を指す場合はこちらのほうが適当
	shelving unit	○	
箆笥[たんす]	cabinet	×	戸の付いた書類整理棚、若しくは小部屋を指す言葉
	chest, tansu	×	日本語と英語をただ併記するのは望ましくない
	chest	○	
茶入れ[ちゃいれ]	tea caddy (chaire)	×	発音を間違えられないよう、ハイフンを入れて“cha-ire”とする
	chaire tea container	×	日本語と英語をただ併記するのは望ましくない
	tea caddy	○	
	tea container	○	
	tea-powder caddy	○	
茶壺[ちゃつぼ]	leaf tea jar	×	
	tea leaf jar	×	ハイフンが必要 tea-leaf
	tea-leaf jar	○	
	tea jar	○	

茶碗[ちやわん]	teabowl	×	英米の主要辞書に記載なし
	teacup	×	違うものを指してしまう
	tea ceremony bowl	×	適切な訳語ではない
	tea bowl	○	
蝶形香合 [ちょうがたこうごう]	incense box in the shape of a butterfly	○	
銚子[ちやし]	ewer	×	
	sake pot	×	適切な訳語ではない
	handled pot	×	
	sake pourer	○	
	sake ewer	○	
	sake bottle	○	
長方皿[ちょうほうざら]	rectangular dish	○	
筒形花瓶[つつがたかびん]	flower vase, cylinder shape	○	
壺[つぼ]	pot	×	「壺」は広口のかなり大きめの花瓶というイメージ。 “pot” や “vase” では伝わらない
	vase	×	
	jar	○	
	jar (<i>tsubo</i>)	○	
鶴首壺[つるくびつぼ]	vase with tall neck	○	
手付桶[てつきおけ]	bowl, in the shape of a hand pail	×	コンマ不要。hand pail では伝わらない
	handled bucket	○	
	vessel with handle	○	
手付鉢[てつきばち]	bowl with loop handle	○	
	bowl with a bridging handle	○	
手箱／手篋／手篋 [てばこ]	tebako (cosmetics box)	×	cosmeticを複数形にするのは間違い
	toiletory case	×	適切な訳語ではない
	casket	×	
	box	○	
	box (<i>tebako</i>)	○	
	cosmetic box	○	
	cosmetic box (<i>tebako</i>)	○	
	<i>tebako</i> (cosmetic box)	○	
	<i>tebako</i> (accessories box)	○	
	<i>tebako</i> (box for accessories)	○	
<i>tebako</i> (box for personal belongings)	○		
手鉢[てばち]	dish	○	
	bowl	○	
	handled bowl	○	
	bowl with handle	○	
土器[どぎ]	clay bowl	×	適切な訳語ではない
	clay vessel/earthenware	×	
	vessel	×	説明不足で伝わらない
	earthenware vessel	○	
土偶[どぐう]	<i>dogū</i> (clay figurine)	○	
	clay figurine	○	
	<i>dogu</i> (clay figurine)	○	
徳利[とくり]	bottle	×	説明不足で伝わらない
	sake wine bottle	×	適切な訳語ではない
	flask	×	
	sake flask	×	
	sake decanter	×	
	tokkuri jar	×	訳語の中に未訳の日本語がある

	sake bottle	○	
	sake bottle (<i>tokkuri</i>)	○	
土瓶【どびん】	pot	×	違うものを指してしまう
	teapot	○	
銅鑊鉢【どらばち】	bowl	○	
棗【なつめ】	natsume tea caddy	×	日本語と英語をただ併記するのは望ましくない
	jujube-shaped caddy	×	jujube が何か分かる人が少ない
	tea caddy	○	
	tea caddy, <i>natsume</i> type	○	
	tea container	○	
捻鉢【ねじりばち】	bowl with spiral design	○	
杯【はい】	sake cup	○	
箱／筐／筥【はこ】	box	○	
	ornamental box	○	
	covered box	○	
鉢【はち】	bowl	○	
	flat bowl	○	
	dish	○	
八角皿【はっかくざら】	octagonal bowl	○	
	octagonal dish	○	
八角鉢【はっかくばち】	octagonal bowl	○	
八角瓶【はっかくびん】	octagonal vase	○	
花生【はないけ】	vase	×	説明不足で伝わらない
	flower vase	○	
花入れ【はない(れ)】	vase	×	説明不足で伝わらない
	bottle	×	適切な訳語ではない
	flower vase	○	
	flower vessel	○	
花形鉢【はながたばち】	flower-shaped bowl	○	
盤【ばん】	basin	○	
	dish	○	
	plate	○	
	square vessel	○	
提子【ひさげ】	sake ewer	○	
瓢形徳利【ひさごがたとくり】	pair of sake bottles in the shape of gourd	○	
	bottle in the shape of a double gourds	○	
菱形皿【ひしがたざら】	lozenge-shaped dish	○	
櫃【ひつぎ】	chest	○	
重口水指 【ひとえぐちみずさし】	water jar with straight lip	○	
屏風【びょうぶ】	panel screens	×	
	six-fold screen	×	
	screen (s)	○	
	folding screen (s)	○	
	six-panel screen (s)	○	
	six-panel folding screen (s)	○	
	five-panel folding screen (s)	○	
	Japanese screen (s)	○	
平皿【ひらざら】	dinner plate	○	西洋式の皿を指す場合のみ可
	dish	○	
平鉢【ひらばち】	serving dish (Hirabachi)	×	“Hirabachi” のみ大文字にするべきではない
	flat bowl	○	

	large dish	○	
	platter	○	
瓶[びん・かめ]	jar	×	適切な訳語ではない
	bottle	○	
	vase	○	
深鉢[ふかばち]	beveler bowl	×	訳語として不正確
	pot	×	適切な訳語ではない
	deep bowl	○	
富士山形皿 [ふじさんがたざら]	mountain-shaped dish	○	
蓋付筥[ふたつきばこ]	covered box	○	
蓋物[ふたもの]	bowl and cover	○	
	bowl with lid	○	
	box with lid	○	
	container with lid	○	
	covered bowl	○	
	covered box	○	
	covered dish	○	
	covered vessel	○	
	lidded container	○	
	lidded vessel	○	
文箱[ふばこ]	letter box	×	英語の“letterbox”（郵便箱）を連想させる
	<i>fūbako</i> (document box)	○	
文台[ふんだい]	<i>bundai</i> (writing desk)	○	
文房具箱[ぶんぼうぐばこ]	matching boxes for writing equipment and paper	○	
瓶子[へいし]	vase	×	適切な訳語ではない
	sake bottle	○	
	sake vessel (<i>heishi</i>)	○	
	<i>heishi</i> (ritual sake bottle)	○	
扁壺[へんこ]	vase	×	形状が伝わらない
	flask	○	
	flat-sided flask	○	
	flattened jar	○	
方形壺[ほうけいつぼ]	rectangular vase	○	
盆[ぼん]	basin	○	
	tray	○	
	tray (<i>bon</i>)	○	
	<i>bon</i> (tray)	○	
曲輪造[まげわづくり]	magewa (bent wood) craft	×	
	magewa work	×	訳語の中に未訳の日本語がある
	bending work	×	
	'hoop built core' (magewa-zukuri)	×	
	hoopwork (magewa)	×	
	<i>magewa</i> (bentwood) work	○	
丸皿[まるざら]	plate	○	
	round plate	○	
丸盆[まるぼん]	circular tray	○	
水瓶[みずがめ]	bottle	○	
	jug	○	注ぎ口があれば“pitcher”か“jug”
	pitcher	○	
水指[みずさし]	freshwater container	×	ハイフンが必要 “fresh-water”なら可
	fresh water jar	×	

	tea ceremony fresh water jar	×	
	mizusashi fresh water jar	×	日本語と英語をただ併記するのは望ましくない
	water container with lid	×	
	water pitcher	×	
	water container	○	
	fresh-water container	○	
	fresh-water jar	○	
	water jar	○	
	tea-ceremony jar for fresh water	○	
向付【むこうづけ】	bowl	×	説明不足で伝わらない
	cup	×	
	mukozuke	×	日本語だけでは伝わらない
	mukozuke dishes	×	訳語の中に未訳の日本語がある
	mukozuke food cup	×	
	<i>mukōzuke</i> (food cup)	○	
	small dish (<i>mukozuke</i>)	○	
面取壺【めんとりつぼ】	faceted jar	○	
面取徳利【めんとりとくり】	faceted sake bottle	○	
	bottle with faceted sides	○	
面取花入 【めんとりはないれ】	faceted flower vase	○	
盛器【もりき】	bowl	○	
	dish	○	
	tray	○	
	vessel	○	
盛り鉢【もりばち】	bowl	○	
	footed bowl	○	“footed” は不要だが、足付きの盛鉢の説明であれば可
矢筈口水指 【やはずぐちみずさし】	water jar with arrow-notch mouth	○	
有蓋壺【ゆうがいこ】	covered jar	○	
	jar with lid	○	
	lidded jar	○	
湯桶【ゆとう】	hot water pitcher	×	
	hot water pot	×	ハイフンが必要。“hot water pot”だと“water”が熱いのか“pot”が熱いのか分からない
	hot-water pot	○	
湯呑【ゆのみ】	tea cup	×	teacup は一語
	teacup	○	
	cup	○	
弓形向付 【ゆみがたむこうづけ】	food vessel (<i>mukōzuke</i> , in the shape of an arrow)	○	
四方皿【よほうざら】	square plate	○	
四方鉢【よほうばち】	square bowl	○	“bowl” は間違いではないが、丸いものというイメージがあるので“square dish”のほうがベター
	square dish	○	
立鼓【りゅうこ】	vase in the shape of a drum	○	
料紙箱【りょうしぼこ】	stationery set	×	数箱がセットになっているという意味になる
	writing paper box (<i>ryoushibako</i>)	×	“ryoushibako”ではなく“ryoshibako”なら可
	writing paper box (<i>ryōshibako</i>)	○	
	box for writing paper	○	
	document box	○	
	stationery box (<i>ryōshibako</i>)	○	
輪花形皿【りんかがたざら】	dish with foliate rim	○	

六角壺[ろっかくつぼ]	hexagonal vase	○	
椀[わん]	bowl	○	
	tea bowl	○	
志野茶碗・卯花塙			
志野茶碗[しのちゃわん]	tea bowl	○	
	Shino style	○	
	Shino ware	○	
銘 卯花塙 [めい うのはながき]	known as <i>Unohanagaki</i> (Fence with Deutzia Flowers)	○	作品名の場合、英訳の頭文字は大文字
石川の工芸			
牛首紬[うしくびつむぎ]	Ushikubi pongee	×	英語を母語としている人々のなかでも“pongee” (絹紬)という言葉を知っている人は少ない。“raw silk”などの分かりやすい訳語にするべき
	Ushikubi-tsumugi pongee	×	
	Ushikubi tsumugi	×	日本語だけでは伝わらない
	Ushikubi-tsumugi textiles	×	紬はtextile(織物)ではないので不適切
	Ushikubi <i>tsumugi</i> (raw silk)	○	
大樋焼[おおひやき]	Kanazawa Ohi ware	×	“Kanazawa”は不要
	Ohi pottery	×	“pottery”は英語では独特なニュアンスのある語なので避けた方が無難
	Ohi ware	○	
加賀毛針[かがけばり]	Kaga artificial flies	×	説明不足で伝わらない
	Kaga decorative fishing flies bait	×	“fishing flies”にはすでに“bait”の意味が含まれているので“bait”は不要
	Kaga fishing flies	○	
	Kaga fishing lures	○	
加賀竿[かがさお]	Kaga fishing rod	○	
加賀獅子頭 [かがししがしら]	Kaga lion dance mask	×	ハイフン必要 lion-dance
	Kaga lion head	○	
	Kanazawa lion-dance mask	○	
	Kaga <i>shishigashira</i> (lion head)	○	
	Kaga lion mask	○	
加賀象嵌[かがぞうがん]	Kaga inlaying	×	適切な訳語ではない
	Kaga zogan inlay/decorate by inserting metal	×	文法的に正しくない
	Kaga-inlay	○×	形容詞として使う場合はハイフンがあっても可
	Kaga inlay	○	
	Kaga <i>zōgan</i> (metal-inlay)	○	
加賀提灯[かがちょうちん]	Kaga lantern	○	
	Kaga paper lantern	○	
金沢箔[かなざわはく]	Kanazawa Gold leaf	×	大文字と小文字が混在
	Kanazawa golden leaf	×	英語として違和感がある
	Kanazawa metal leaves	×	不自然で違和感がある
	Kanazawa gold leaf	○	
	Kanazawa- <i>haku</i> gold-leaf crafting	○	国内向け文書なら可。公的な外国向け文書には適さない
	gold leaf from Kanazawa	○	
	gold leaf	○	
	<i>kinpaku</i> (gold leaf)	○	
加賀水引細工 [かがみずひきさいく]	Kaga mizuhiki (paper wire)	×	具体的なイメージがわからない
	Kaga <i>mizuhiki</i> / decorate with strings	×	英語として不自然
	Kaga mizuhiki - ceremonial package strings	×	mizuhikiが日本語だとわかるようイタリック体にする
	Kaga <i>mizuhiki</i> string craft	○×	厳密に言えば、加賀の水引の素材(紙)の場合、stringよりもropeのほうが適切
	Kaga <i>mizuhiki</i> rope	○	
	Kaga <i>mizuhiki</i> (decoration with paper rope)	○	

	Kaga <i>mizuhiki</i> (ceremonial package rope)	○	
加賀友禪 [かがゆうぜん]	Kaga yuzen silk	×	説明不足で伝わらない
	Kaga yuzen silk dyeing	×	yuzen は日本語だとわかるようイタリック体にする
	Kaga yuzen dyeing	×	
	<i>yuzen-dyeing</i>	○×	形容詞として使う場合はハイフンでつないでもよい (名詞として使う場合は不可)
	Kaga <i>yuzen</i>	○×	yuzen の説明があるのが望ましい
	Kaga silk dyeing	○	
	Kaga- <i>yuzen</i> silk dyeing	○	
	Kaga- <i>yūzen</i> silk dyeing	○	長音記号の使用が可能ならyūzenが望ましい
金沢漆器 [かなざわしっき]	Kanazawa urushi lacquer ware	×	“urushi lacquer” は意味の重複になるので不相当
	Kanazawa lacquerware craft	×	“lacquerware craft” は意味の重複になるので不相当
	Kanazawa’s lacquer ware	×	英語として不自然
	Kanazawa lacquerware	○	
	Kanazawa lacquer ware	○	
	Kanazawa <i>shikki</i> (lacquer-ware)	○	
金沢仏壇 [かなざわぶつだん]	Kanazawa household Buddhist altar	×	“Buddhist household” のほうが用語・語順ともにベター
	Kanazawa butsudān (Buddhist home altar)	×	英語として不自然
	Kanazawa Buddhist altar	○	
	Kanazawa Buddhist household altar	○	
金沢表具 [かなざわひょうぐ]	Kanazawa lining craft	×	“lining” だけでは何のことか不明
	Kanazawa wall lining	○	
	Kanazawa wallpaper	○	
金沢郷土玩具 [きょうどがんぐ]	local toy	○	
	Kanazawa local toy	○	
	Kanazawa traditional toy	○	
	Kanazawa traditional local toy	○	
桐工芸 (金沢) [きりこうげい]	Kanazawa paulownia ware	×	“paulownia” が一般的に知られている単語ではないため、木だということを説明する必要がある
	paulownia handicrafts	×	“handicrafts” という言葉は避けるべき。「手芸」のような素人っぽい印象がある
	paulownia woodwork	○	ただし“paulownia” が木だということを説明する必要がある
九谷焼 [くたにやき]	Kutani-yaki ceramic	×	“yaki” の後ろに “ceramic” や “porcelain” をつけるのは意味の繰り返しになるので避ける
	Kutaniyaki ceramic	×	
	Kutani-yaki porcelain	×	
	<i>Kutani</i> ware	×	九谷は固有名詞なのでイタリック体にしない
	Kanazawa kutani pottery	×	“pottery” は英語では独特なニュアンスのある語なので避けた方が無難
	Kutani chinaware	×	適切な訳語ではない
	Kutani ceramics	○×	九谷焼全体を指す場合など、特殊な例をのぞいて複数形にはしない
	Kutani-ware	○×	形容詞的に使う場合はハイフンでつなぐのも可 (しかしハイフンは嫌がられることもある)
	Kutani ware	○	いずれも可だが、文中でware、porcelain、ceramicが混在しないよう統一する (他のやきものに関して同様)
	Kutani porcelain	○	
	Kutani ceramic	○	
琴 (金沢) [こと]	koto (Japanese harp)	×	琴=“harp” ではない
	koto - a Japanese zither	○	
	Kanazawa koto (Japanese zither)	○	
	Kanazawa Japanese zither (koto)	○	

三弦(金沢)[さんげん]	Kanazawa <i>sangen</i> (three string instrument)	×	“three-stringed” とする
	<i>sangen</i> - a Japanese banjo	×	“banjo” はアメリカ南部を連想させる
	<i>sangen</i> (three-stringed musical instrument)	○	
	Kanazawa <i>sangen</i> (three-stringed musical instrument)	○	
太鼓[たいこ]	Asano Japanese drums	×	“Japanese” は不要
	Kaga drums	○	
	Kaga <i>taiko</i> (drums)	○	
竹細工[たけざいく]	bamboo wickerwork	×	“wickerwork” は主に柳細工に使われる言葉
	bamboo crafts	○	
	bamboo art	○	
	bamboo basket	○	
銅鑼[どら]	gong	○	
	Kanazawa bronze gong	○	
七尾仏壇[ななおぶつだん]	Nanao household Buddhist altar	×	“Buddhist household” のほうが用語・語順ともにベター
	Nanao altar (local brands)	×	説明不足で伝わらない
	Nanao Buddhist altar	○	
	Nanao Buddhist household altar	○	
七尾和ろうそく [ななおわ(ろうそく)]	Nanao Japanese candle	×	“Japanese” であることは明らかなのでなくてもよい
	Japanese Nanao candle	×	
	Nanao candle	○	
能登花火[のとはなび]	Noto fireworks	○	
檜細工(加賀)[ひのみざいく]	Kaga cypress wickerwork	×	“wickerwork” (小枝細工) は柳細工を指すことが一般的で、檜に用いるのは違和感がある
	Japanese cypress handi-craft	×	“handicrafts” という言葉は「手芸」のような素人っぽい印象があるので避ける
	cypress plaiting	○	
	Kaga cypress woven work	○	
美川仏壇[みかわぶつだん]	Mikawa altar (local brands)	×	説明不足で伝わらない
	Mikawa household Buddhist altar	×	“Buddhist household” のほうが用語・語順ともにベター
	Mikawa Buddhist altar	○	
	Mikawa Buddhist household altar	○	
山中漆器[やまなかしっき]	Yamanaka urushi lacquer ware	×	“urushi lacquer” は意味の重複になるので不適當
	Yamanaka lacquerware craft	×	“lacquerware craft” は意味の重複になるので不適當
	Yamanaka <i>shikki</i> lacquerware	×	ハイフン必要 yamanaka-shikki
	Yamanaka- <i>shikki</i> lacquerware	○	
	Yamanaka <i>shikki</i> (lacquerware)	○	
	Yamanaka lacquerware	○	
輪島塗[わじまぬり]	Yamanaka lacquer ware	○	
	Wajima urushi lacquer ware	×	“urushi lacquer” は意味の重複になるので不適當
	Wajima-nuri	×	日本語だけでは伝わらない
	wajimanuri	×	語頭が小文字なのは間違い
	Wajima lacquerware	○	
	Wajima lacquer ware	○	
	Wajima lacquer	○	
Wajima <i>nuri</i> (Wajima lacquerware)	○	地名はイタリックにする必要はないが、用語 (<i>nuri</i>) はイタリックにする	
分野を表す言葉			
金工[きんこう]	metalworks	×	複数形で使うことはほばない
	metal works	×	
	metalwork	○	
	metalworking	○	

	metal work	○	
漆芸[しつげい]	urushi-art (Japanese lacquer)	×	適切な訳語ではない
	lacquered wood	×	形容詞的に使う場合は“lacquered-wood”のようにハイフンが必要
	black lacquered	×	上記と同様に、“black-lacquered”なら可
	Japanese lacquerwork art	×	英語として不自然
	lacquerwork	×	二語に分けたほうがよい
	bengara lacquer	○×	
	cinnabar lacquer	○×	
	lacquer	○	
	lacquer art	○	
	(Japanese) lacquer art	○	
	lacquer work	○	
	Japanese lacquerwork	○	
	urushi (Japanese lacquer) art	○	
	七宝[しっぽう]	cloisonné	×
cloisonne enamel ware		×	
shippo		○×	日本語だけでは伝わらない
enamel art		○×	
enamelled copper		○×	
cloisonné/champlevé		○×	
cloisonné		○	
cloisonné enamel		○	
Japanese cloisonné		○	
enameled cloisonne (shippo)		○	
shippo (cloisonné)		○	
染織[せんしよく]	textile	×	複数形にして用いる
	textiles	○	
	textile arts	○	
	dyeing and weaving	○	
竹工[ちくこう]	bamboo art	○	
	bamboo craft	○	
	bamboo work	○	
	bamboo craftwork	○	
陶芸[とうげい]	ceramics	○	
	ceramic art	○	
	art of pottery and ceramics	○	
人形[にんぎょう]	doll/human figure	○×	“human figure” は “doll” の言い換えにならない
	doll	○×	伝統工芸の人形のニュアンスが伝わらない
木竹工[もくちくこう]	wood works/bamboo works	×	
	woodcraft/bamboo craft-work	○×	“woodcraft” という言葉は英国の社会運動 the woodcraft folkを連想させるので避けたほうが無難
	wood and bamboo work	○	
	woodwork/bamboo work	○	
木工[もっこう]	woodwork/wood craft	×	
	woodworking	○	
	woodwork	○	
	wood work	○	
そのほか			
截金[きりかね]	cut gold (kirikane)	×	適切な訳語ではない
	cut gold	×	適切な訳語ではない
	kirikane	×	日本語だけでは伝わらない
	kirikane (cut gold leaf)	○	

硯[すずり]	inkstone	×	
	inkstone (<i>suzuri</i>)	×	
	ink slab	×	
	ink stone	○	
	ink-grinding stone	○	より伝わりやすい
象牙[ぞうげ]	ivory	○	

参考資料1

「文化財の英語解説のあり方について」(「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議^{*}報告書」平成28年7月)より ※「文化財を核とする観光拠点の整備にはわかりやすい解説の充実・多言語化が必要不可欠」との認識から、観光庁と文化庁が合同で立ち上げた会議

〈英語解説の改善・充実にあたってのチェックポイント〉

●外国人旅行者にとって十分に理解できる内容となっているか

日本人であれば大半の人が当然理解できる固有名詞も、外国人旅行者は見聞きしたことがない。

例)「江戸時代」……いつか?

「将軍」「卑弥呼」……誰か?

「暖簾」「神輿」……いつ何に使われているか?

「関ヶ原の戦い」……いつのどんな出来事か?

そのため、日本語の解説を英文に直訳するだけではかなりわかりづらくなる。これを防ぐには、外国人観光客に理解が難しそうな単語がないか確認し、以下のような方策をとるべきである。

①適切な英語に置き換える(直訳するのではなく、例えば「暖簾」→「traditional shop curtain」のように意識する)

②文章を足したり注釈を加えたりする

また、全国的に共通して使用される「神社」「仏教」などの言葉は、ある程度統一感を持った解説が有効である。地域において頻出の固有名詞があれば、その表記も統一する。特にローマ字はさまざまな表記があり得るので、混乱しないよう統一する。

●文化財の価値や背景などを理解の上、何を解説するか整理できているか

わかりやすい解説を作るには、文化財や日本文化に知見があり、英文の作成能力が高い人材の確保が必要となる。例えば複数の兜や刀を並べるなど同種のものの展示は、外国人の目線では同一のものに見えることが多く、「何が見所か(何を覚えてもらいたくて展示しているのか)」をよく吟味しなくてはならない。

〈取組事例より〉

①国立能楽堂の「英語字幕台本ガイドライン」(抜粋)

・観劇に必要な最低限の知識を提供し、過度の説明は避ける

・曲目はローマ字(英訳)の順で表示する。

例) Tsuchigumo (The Ground Spider)

・能の専門用語は英語の一般的な表現で説明し、ローマ字による名称表示は必要以上に行わない。

例) agemaku → curtain

②田辺市熊野ツーリズムビューロー

地域内の看板のローマ字をへボン式表記に統一。それまでは地域内で同一の固有名詞が統一

されておらず、外国人旅行者が別の建物なのかと混乱することがあった。

例) 大塔 Ottou, Otoh, Outou, Onto, Ohtoh, Ôto, Otou, Ôto
→Oto に統一

例) 熊野本宮大社

Kumano Great Shrine, Hongu Shrine, Hongu Grand Shrine, Hongu Taisha Shrine, Kumano Great Taisha, Kumano Hongu Taisha など 19通り
→Kumano Hongu Taisha (Shrine) に統一

参考資料2

「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(平成26年3月 観光庁)より

〈英語の表記方法の基本方針〉

①「一般的な固有名詞のうち日本由来のもの」

表音表記とする。

例) Tokyo (東京)、Nishi-Shinjuku (西新宿)、Hiro-o (広尾)

②「一般的な固有名詞のうち外国由来のもの」

原語部分を英語表記にする。

例) Lincoln (リンカーン)、Minami-Alps (南アルプス)

③「普通名詞部分を含む固有名詞」

• 固有名詞の表音を表記するとともに、普通名詞部分の表意を表記する。その際、表音表記のみならず、表意表記の頭文字も大文字とする。

例) Hibiya Park (日比谷公園)、Mt. Aso (阿蘇山)、Ishikari River (石狩川)

• 普通名詞部分を切り離してしまうと、それ以外の部分だけでは意味をなさなかったり、普通名詞部分を加えた全体が不可分の固有名詞として広く認識されている場合には、全体の表音表記に加えて、普通名詞部分の表意を表記する。

例) Mt. Gassan (月山)、Arakawa River (荒川)

• 寺(仏閣)・神社については、対応する日本語が複数存在する(Temple →寺・院など、Shrine →神社・神宮・天満宮・大社など)ことから、意味・呼び名を正しく伝えるため、ローマ字による全体の表音表記に加えて、普通名詞部分の表意を表記することが望ましい。

例) Kiyomizu-dera Temple (清水寺)、Heian-jingu Shrine (平安神宮)

• 駅名や施設名として使用されている等、日本語による表音表記が確立されている場合は、表音表記した後、表意を()で括って表記する。

例) Kokkai-Gijidomae (National Diet Bldg.) (国会議事堂前・駅名)、
Tetsugaku-no-Michi (Path of Philosophy) (哲学の道)

④日本由来で翻訳先言語に対訳があるもの

• 表意表記とする

例) book ←本

• 対訳があるものの、日本文化を正しく理解するために日本語の読み方を伝えることが必要であ

る場合は、表音表記した後、表意を()で括って表記する。

例) *Chawan* (Tea bowl)

- 日本語の表音の表記が既に広く認識されている場合は、表意の表記は必要としない。

例) *Samurai* ←侍、*Onsen* ←温泉

⑤「日本由来で、翻訳先言語に対訳がないもの」

- 表音表記した後、説明的な語句を表記する。表意表記の頭文字は大文字とする。

例) *Noren* (Traditional shop curtain) (暖簾)

- 日本語の表音の表記が既に広く認識されている場合は、説明的な語句は必要としない。

例) *Sushi*

⑥「外国由来のもの」

- 原語を英語訳して表記する

例) *Escalator* ←エスカレーター

⑦その他表記上の注意点

- 表音の表記方法は常にヘボン式ローマ字を用いる。
- 括弧()の前には半角スペースを入れる。文章の中で使用する場合は括弧の後ろにも半角スペースを入れるが、ピリオド(.)、コロン(,)の前には半角スペースを入れない。
- スペース・視認性の観点等から略語を用いることが適当と考えられる場合には、略語を用いることができる

例) *Station* → Sta., *Building* → Bldg.

- 普通名詞の表音を表記する際、必要に応じてイタリックで表記することができる。
- 長音は母音字の上に長音符号(-)をつけて表すことができる。長音が大文字の場合は母音字を並べることができる。(注)長音符号は日本独自のもので、国際化されていないため、外国人に理解されない可能性もある。長音符号の使用は事業者や自治体等で対応が異なるため、表示にあたっては確認が必要。
- 文の書きはじめ並びに固有名詞は語頭を大文字で書く。なお、固有名詞以外の名詞の語頭を大文字で書くこともできる。
- 意味のかたまりや発音のしやすさ等の観点から、複数の名詞等で構成される固有名詞やoが重なる場合等は、その間にハイフン(-)を入れることができる。
- はねる音を表すnと、次にくる母音字またはyとを切り離す必要がある場合には、nのつぎにハイフン(-)を入れる。

協力者

以下の方々を中心にアンケート、アドバイスを元に編集いたしました。感謝申し上げます

Jan Dees	ハインツ・カエッパ―財団代表
Susan Dine	ミシガン大学大学院生 (日本近代美術史、仏教美術史)
Joe Earle	ボナムズ日本美術部門シニア・コンサルタント、元ジャパン・ソサエティ・ギャラリー (NY) ディレクター、元ボストン美術館東洋部主任部長
Ronald T. Labaco	インデペンデントキュレーター、元 Museum of Arts and Design, NY キュレーター
Sophie Richard	美術史家
Tina Rose	スコットランド・クラフト・ビエンナーレ2018ディレクター、リアリイインタレストイングオブジェクトCICディレクター
Nicole Coolidge Rousmaniere	大英博物館IFACハンダ日本美術キュレーター、セインズベリー日本藝術研究所リサーチディレクター
Guy Salter	ロンドンクラフトウィーク チェアマン
Milosz R. Wozny	東京国立博物館国際交流室専門職
Robert Yellin	ロバートイェリンやさみのギャラリー代表
井谷善恵	東京藝術大学特任教授
及部奈津	ミシガン大学美術館アジア美術キュレーター
内田篤具	MOA美術館館長
内田ひろみ	大英博物館アジア部日本セクションプロジェクトマネージャー
大木香奈	東京都庭園美術館学芸員
大槻倫子	滋賀県立陶芸の森陶芸館主任学芸員
金子智慧美	クラウドファンディング・ラボラトリ (株) ソーシャルファイナンス研究所
呉藤安宏	公益財団法人山中漆器産業技術センター専門員
佐久間 真子	愛知県陶磁美術館学芸員
周 思敏	京都国立博物館事業推進係多言語対応フェロー
高 禎蓮	彦十蒔絵
富田康子	横須賀美術館学芸員
西田宏子	根津美術館顧問
野見山 桜	東京国立近代美術館工芸課デザイン室客員研究員
服部文孝	瀬戸市美術館館長
平野龍一	サザビーズジャパン代表取締役
深井桂子	Keiko Art International代表
福永 愛	ロンドン大学東洋アフリカ学院
松下久子	長崎歴史文化博物館学芸員
蓑 豊	兵庫県立美術館館長
村上 潤	金沢卯辰山工芸工房館長補佐
村山 閑	多治見市モザイクタイルミュージアム学芸員
室瀬和美	漆芸家、重要無形文化財 (蒔絵) 保持者、日本工芸会副理事長
山本知行	金沢市立中村記念美術館館長

無断転載・無断複写を禁じます。

© The Creation of Japan incorporated association

デザイン＝松田行正十梶原結実

イラスト＝山村ヒゲト、河合理佳

100年後に残る工芸のために普及啓発実行委員会

一般社団法人 ザ・クリエイションオブ・ジャパン

文化庁 平成29年度「地域の核となる美術館・歴史博物館」支援事業



Agency for Cultural Affairs
Government of Japan